

神  
宮  
法  
規

014178-000-7

特15-917

神宮法規

神宮司庁／著

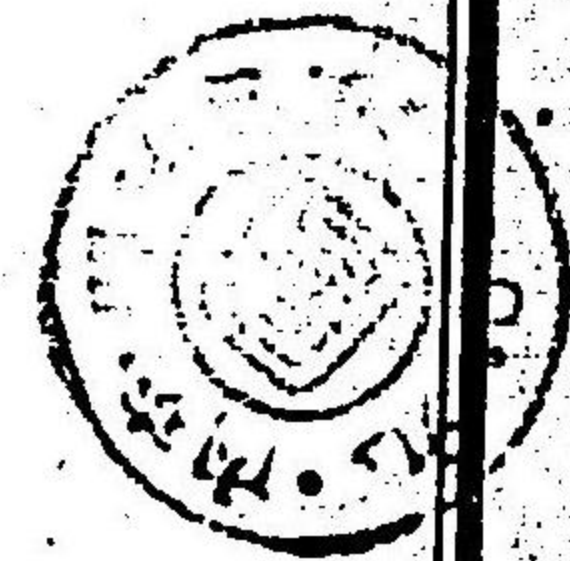
M35

ABB-0476



持15  
917

明治三十五年



神宮法規



神宮司廳

憲克有常



Faint, ghostly text impressions within a rectangular border on the right page, likely bleed-through from the reverse side of the document.

明治卅五年九月題

大宮司伯爵冷泉為紀



神宮法規序

神宮ノ事古来不言ノ間ニ行ハレ之ヲ明文ニ載  
スルモノ少シ明治維新ノ後猶其舊慣ヲ存スト  
雖之ヲ要スルニ其秘スヘキト否ラサルトハ自  
其別アリ近年國家ノ崇敬日ニ益篤ク政府ノ施  
設亦漸ク密ナリ乃順次規程ヲ設ケ其改ムヘキ  
ハ之ヲ改メ其廢スヘキハ之ヲ廢シ稍明文ヲ備  
フルニ至レリ是ニ於テ庶務課員ヲシテ之カ編

纂ニ從事セシム其功成ルニ及ヒ披テ之ヲ閱ス  
ルニ我カ神宮ニ關スル現行ノ法令諸規則細大  
盡ク載ス名ケテ神宮法規ト曰フ我カ諸僚之ニ  
摠テ夙夜孜々敢テ怠ルコトナクシハ裨益スル  
所蓋大ナル可シ然レトモ本書ノ編纂ハ事創始  
ニ屬スルヲ以テ或ハ尚不備ノ譏ヲ免レサラン  
カ覽者幸ニ之ヲ察セヨ

### 神宮少宮司桑原芳樹

#### 凡例

- 一本編ハ神宮ニ關スル現行ノ法令諸規則ヲ纂輯ス
- 一本編ハ神宮司廳ノ部十一類神部署ノ部五類之ニ雜部ヲ加ヘテ十七類ニ別チ類別目錄及索引目錄ヲ附シ搜覽ニ便ス
- 一法令ハ悉ク其ノ發令ノ年月日號數ヲ掲ケ官省ノ令達告示等ハ其ノ官省名ヲ表記ス單ニ達第何號告示第何號ト掲クルモノハ神宮司廳ノ部類ニ於テハ神宮司廳ノ令達神部署ノ部類ニ於テハ神部署ノ令達ナリ
- 一法令諸規則中一部ノ改廢加除ニ係ルモノハ本文ヲ修正シ其ノ發令ノ年月日及號數ヲ欄外ニ掲記ス
- 一神宮司廳ニ於テ定メタル諸規則ニ限リ明治三十三年九月勅令第三百七十六號ヲ以テ改正セラレタル官名及明治三十一年十二月神宮司廳達第三四號ヲ以テ改正シタル神宮皇學館職名ハ便宜新官名新

職名ニ更正ス

一 一令一規ニシテ他類ニ關スルモノハ重複ヲ避ケ甲ニ收ムレハ乙ニ略シ其ノ收ムル所ノ部類ヲ示シテ檢索ニ便ス

一 法令諸規則中專神宮衛士神宮皇學館古事類苑編纂事務所神宮故事編纂所及神樂殿ニ關スルモノハ便宜其ノ部類中ニ一括シテ輯録ス

一 法令諸規則中全文ヲ掲クルノ必要ナキモノハ繁冗ヲ避ケ抄録或ハ省略ヲナセリ

一本編ハ明治三十五年三月二十八日ノ現行ニ依リ之ヲ纂輯ス

明治三十五年三月

編者識

# 神宮法規類別目錄

## 神宮司廳

### 第一類

官制 官等 俸給 任免 服制 賜金  
雇員

### 第二類

祭典 神寶 寶物

### 第三類

處務 勤務 旅行

### 第四類

服務 懲戒

### 第五類

文書 圖書

第六類

會計

第七類

神地

工事

遺失物

第八類

衛士

第九類

神宮皇學館

第十類

古事類苑編纂事務所

第十一類

神宮故事編纂所

神部署

雜

第一類

官制

任用

俸給

服制

第二類

處務

旅行

服務

懲戒

第三類

會計

第四類

大麻

曆

第五類

神樂殿

# 神宮法規索引目錄

## 神宮司廳

### ○第一類

- 神宮司廳官制
- 神宮司廳職員官等俸給
- 高等官官等俸給令
- 判任官俸給令
- 官制及俸給令改正ノ際俸給支給方
- 文官俸給支給細則
- 神宮司廳職員任用令
- 神宮大宮司少宮司初叙陞叙轉任

明治二十九年十一月二十八日  
勅令第三百七十一號

明治三十三年三月三十日  
勅令第九十號

明治三十五年十一月十二日  
勅令第九十六號

明治三十四年七月二十四日  
勅令第八十三號

明治二十四年八月一日  
勅令第六十五號

明治三十五年十二月二十三日  
大藏省令第十一號

明治三十五年二月八日  
勅令第三十號

明治三十五年二月八日  
勅令第三十一號

一  
三  
三  
七  
八  
九  
二  
二



○文官分限令	明治三十二年三月二十七日 勅令第六十二號	二二
○神官神職服制	明治二十七年一月三十一日 勅令第六號	一五
○大禮服着用ノ件	明治六年十月二十九日 大政官第三百五十九號布告	一九
○神宮祭祀着服ノ件	明治二十七年四月十七日 達第四號	一九
○文官判任官以上退官賜金	明治二十三年六月二十日 勅令第九十八號	一九
○官吏療治料給與ノ件	明治二十五年九月二十六日 勅令第八十號	二〇
○神宮雇員ニ關スル規則	明治三十三年十月二日 內務省訓第九三五號	二〇
○出仕樂員樂員試補等給及俸給表	明治三十三年六月二十七日 達第二五號	二一
○攝末社守衛等級及年手當金	明治三十五年二月二十八日 達第一三號	二三
○神宮傭人給與規程	明治三十五年二月二十八日 達第一六號	二三
○神宮衛士長以下俸給支給ノ件	明治三十五年二月二十八日 達第一八號	二五

附 錄

○官役人夫死傷手當規則	明治八年四月九日 大政官第五十四號達書	二五
○第一類		
○神宮大祭公式祭區別	明治二十七年五月九日 內務省訓第三二七號	二九
○神宮諸祭典日時	明治二十六年十二月十二日 告第九號	三〇
○日別朝夕大御饌奉奠時間	明治九年三月二十八日 式部寮達	三二
○儀仗兵之件	明治六年四月三日 大政官第百二十三號布告	五三
○宣命ヲ御祭文ト改稱ノ件	明治三十五年二月二十八日 達第一五號	五三
○諸祭典齋宿常典御饌宿衛分課ノ件	明治三十年十二月一日 達第二六號	五四
○東西寶殿及外幣殿管理規定	明治三十四年五月十一日 達第二五號	五五
○撤下御物陳列所規程	明治三十四年五月十一日 達第二六號	五六
○撤下御物陳列所監督員ノ件	明治三十五年二月三日 達第六號	五六
○神宮寶物保管規程		

○第三類

- 神宮司廳處務細則  
明治三十三年十二月二十六日  
達第五〇號 五九
- 齋宿規程  
明治三十二年七月十一日  
達第一三號 七〇
- 宿衛規程  
明治三十二年八月二十八日  
達第一四號 七二
- 宿衛屋詰ニ關スル件  
明治三十四年五月二十三日  
達第二七號 七六
- 豐受宮忌火屋殿詰規程  
明治三十二年八月二十八日  
達第一五號 七六
- 兩宮參集所詰規程  
明治三十二年六月二十八日  
達第七號 七八
- 兩宮攝末社守衛勤務心得  
明治二十八年七月十一日  
達第九號 八〇
- 執務時間  
明治二十五年十二月二十二日  
閣令第六號 八一
- 休暇日ノ件  
明治九年三月十二日  
大政官第二十七號達書 八一
- 年中祝祭日休暇ノ件  
明治六年十月十四日  
大政官第三百四十四號布告 八二
- 御用始及御用納日時  
明治三十四年十二月二十七日  
達第四九號 八三

○神宮司廳當直規程

- 神宮司廳職員旅行規定  
明治三十四年四月十八日  
達第二三號 八三
- 神宮司廳職員旅費規程  
明治三十年四月二十八日  
內務省訓第四〇七號 八六
- 神宮司廳職員旅費規程  
明治三十一年五月二十六日  
內務省訓第四八六號 八七
- 內國旅費規則  
明治三十年九月二十四日  
勅令第三百三十三號 八八
- 旅費其外概算渡前金渡方  
明治二十二年十一月二十日  
勅令第二百一十一號 九二
- 瀧原宮伊雜宮詰出張職員日當支給額並宿泊料ノ件  
明治三十二年六月十九日  
達第六號 九三

○第四類

- 官吏服務紀律  
明治二十年七月二十九日  
勅令第三十九號 九五
- 神宮司廳職員服務心得  
明治三十五年二月二十八日  
達第一〇號 九八
- 正忌日者齋宿ノ件  
明治二十八年十月七日  
告第八號 一〇〇
- 墓參會葬ニ付遠慮ノ件  
明治三十年九月二十一日  
告第四號 一〇〇
- 文官懲戒令  
明治三十二年三月二十七日  
勅令第六十三號 一〇一

○第五類

- 神宮司廳文書保存規程
- 圖書貸付規程

明治三十四年十月一日  
達第四一號  
明治三十五年二月二十八日  
達第九號

一〇七  
一〇九

○第六類

- 神宮會計規則
- 神宮會計規則補則
- 神宮司廳會計細則
- 神宮物品會計規則
- 神宮司廳不動產及動產臺帳樣式
- 神宮物品出納規程

明治三十三年十月二日  
內務省訓第九三八號  
明治三十三年十二月二十七日  
內務省訓第一二〇五號  
明治三十四年九月三日  
達第三九號  
明治三十四年二月十九日  
內務省訓第九一號  
明治三十三年四月二十三日  
內務省社寺局長通牒社甲第一四號  
明治三十五年一月十六日  
達第三號

一一三  
一二四  
一二八  
一三七  
一四九  
一五九

○第七類

- 神地取締規定

明治三十年六月二十五日  
達第二〇號

一七三

- 地所名稱區別 (抄録)

明治七年十一月七日  
大政官第百二十號布告

一七五

- 神宮工事請負ニ關スル規程

明治三十四年四月十二日  
達號外

一七五

- 遺失物法

明治三十二年三月二十三日  
法律第八十七號

一九二

- 遺失物取扱ニ關スル件

明治三十三年十月二十五日  
神宮司廳庶務課通知丁第百九號

一九六

- 拾得物取扱ニ關スル件

明治三十三年五月九日  
內務次官通牒警甲第百二號內

一九六

○第八類

- 神宮衛士長衛士副長衛士ニ關スル件
- 衛士長衛士副長衛士俸給等ニ關スル件
- 衛士長衛士副長衛士服裝規則
- 衛士長衛士副長衛士服制提燈徽章
- 衛士長衛士副長衛士服務規則
- 衛士長衛士副長衛士服務細則

明治三十一年八月十二日  
勅令第百八十九號  
明治三十三年三月三十一日  
內務省訓第三五一號  
明治三十一年八月十三日  
內務省訓第七一七號  
明治三十一年八月十三日  
內務省訓第七二〇號  
明治三十二年十月十八日  
內務省令第五十三號  
明治三十三年六月三十日  
達第二八號

一九九  
二〇〇  
二〇〇  
二〇二  
二一八  
二二〇

○衛士長衛士副長衛士懲戒ニ關スル件	明治三十一年八月十三日 內務省訓第七一九號	二四三
○衛士長衛士副長衛士給與品及貸與品規則	明治三十一年八月十三日 內務省訓第七一八號	二四四
○衛士點檢及訓授規則	明治三十一年十一月十五日 達第三一號	二四七
○衛士帶劍心得	明治三十二年十一月二十九日 達第三二號	二五三
○衛士長衛士副長衛士ノ服務ニ關シ規程ヲ設クルノ件	明治三十一年九月十日 內務省訓第七九五號	二五四
○衛士長衛士副長衛士旅費規程	明治三十一年八月二十九日 內務省訓第七六二號	二五五
○瀧原宮伊雜宮見張所詰衛士日當並宿泊料ノ件	明治三十三年十二月二十九日 達第五三號	二五六
○神宮消防規程	明治三十五年二月二十八日 達第一四號	二五六
○第九類		
○神宮皇學館職制	明治三十一年十二月二十九日 達第三四號	二六三
○神宮皇學館規則	明治三十二年八月三十一日 達第一七號	二六五
○神宮皇學館選修科規定	明治三十四年一月二十四日 達第四號	二八三

○神宮皇學館館務分掌規程	明治二十九年三月二十七日 達第九號	二八五
○神宮皇學館職員俸給規程	明治二十九年三月十二日 達第五號	二八八
○神宮皇學館職員退職死亡賜金規程	明治二十九年三月十二日 達第六號	二九一
○神宮皇學館館費及貸費規約	明治三十五年二月二十八日 達第一二號	二九二
○神宮皇學館學生取締規則	明治三十二年十一月二日 達第二八號	二九三
○神宮皇學館寄宿寮規則及學生學資保管規程	明治三十二年十一月二日 達第二九號	二九五
○神宮參拜日及勅語奉讀日	明治三十二年十一月二十一日 達第三一號	三〇三
○徵兵猶豫及教員免許資格		三〇四
○第十類		
○古事類苑編纂規則	明治三十三年八月二十七日 達第三一號	三二五
○古事類苑編纂事務所宿直心得	明治三十一年十月五日 達第三〇號	三二九
○古事類苑編纂事務所職員旅費規程	明治三十五年二月十五日 達第八號	三三〇

○古事類苑編纂事務所理事及事務員旅費並手當金支給規程

明治二十八年十二月十四日  
達第一四號

三三一

○第十一類

○神宮故事編纂所職制

明治三十二年九月九日  
達第二〇號

三三三

○神宮故事編纂所書記月俸

明治三十五年二月二十八日  
達第一七號

三三四

○神宮故事編纂所雇員採用方及給料

明治三十五年二月二十八日  
達第一九號

三三四

○神宮故事編纂員旅費支給ノ件

三三五

神部署

○第一類

○神部署官制

明治三十三年九月二十六日  
勅令第三百七十四號  
明治三十三年十月二日  
內務省訓第九三五號

三三七

○神宮雇員ニ關スル規則

三三八

○官國幣社及神部署神職任用令

明治三十五年二月八日  
勅令第二十八號

三三八

○神部署職員俸給ノ件

明治三十三年九月二十六日  
勅令第三百七十五號

三三二

○神部署職員俸給額

明治三十三年十月九日  
神宮司廳達第三九號

三三三

○神部署雇俸給表

明治三十三年十月十八日  
達第一號

三三四

○神樂殿舞女備給表

明治三十四年四月十日  
達第一二號

三三五

○神官神職服制

明治二十七年一月三十一日  
勅令第六號

三三五

○第二類

○處務細則改正ニ關スル件

明治三十四年四月一日  
神宮司廳訓第一七號

三三七

○神部署處務細則

明治三十四年四月一日  
達第一一號

三三七

○神部署宿直規程

明治三十四年三月三十日  
達第一〇號

三四七

○文書提出ニ關スル件

明治三十三年十一月二十九日  
神宮司廳訓第三號

三四九

○參務員召集ノ件

明治三十四年四月八日  
神宮司廳訓第一八號

三四九

- 神部署職員旅行等ニ關スル件  
明治三十三年十月九日  
神宮司廳達第四〇號 三五〇
- 神部署職員旅費支給ニ關スル件  
明治三十三年十月九日  
神宮司廳達第四一號 三五一
- 官吏服務規律  
明治二十七年七月二十九日  
勅令第三十九號 三五三
- 職員以下慕參及葬儀ニ關スル件  
明治三十四年二月一日  
達第六號 三五三
- 神職懲戒令  
明治三十五年二月八日  
勅令第二十九號 三五三
- 第三類
- 神部署會計細則  
明治三十四年一月二十八日  
神宮司廳訓第一號 三五五
- 神宮會計規則補則  
明治三十四年一月七日  
神宮司廳達第一號 三五九
- 神宮物品出納規程  
明治三十五年一月十六日  
神宮司廳訓第一號 三五九
- 第四類
- 大麻及曆ノ製造及頒布ニ關スル規則  
明治三十二年九月四日  
內務省訓第八二三號 三六一
- 神宮大麻受不受ハ人民ノ自由トスル件  
明治十一年三月二十三日  
內務省乙第三十號達 三六四

- 皇族ハ大麻及曆獻進ノ件  
明治三十四年八月二十一日  
神宮司廳訓第二〇號 三六四
- 第五類
- 神樂殿宿直規程  
明治三十四年一月十四日  
達第一號 三六五
- 神樂殿建物所管ニ關スル件  
明治三十四年二月十五日  
神宮司廳達第一六號 三六七
- 神宮神樂殿雅樂講習所規程  
明治三十四年十二月二十八日  
達第二八號 三六七
- 神宮神樂殿雅樂員試驗規則  
明治三十四年七月十七日  
達第一八號 三七〇
- 雜
- 皇室婚嫁令  
明治三十三年四月二十五日 三七三
- 勅使著服 三七五
- 皇族御參拜下馬下乘 三七七
- 叙位條例  
明治二十年五月四日  
勅令第十號 三七九

○有位者改姓名死亡其他異動届出方

明治二十四年六月二十五日  
宮内省達乙第一號

三八〇

○參内及參拜御苑參入心得

三八〇

○參賀及賀表

三八二

○神官神職政治論關與禁止

明治三十三年十一月十二日  
内務省神社局長通牒幣甲第一三號ノ内

三八六

○皇族へ大麻及曆獻進ノ件

明治三十三年十一月二十一日  
内務省訓第一〇六五號

三八六

○神部署文書提出ニ關スル件

明治三十四年五月二十四日  
三重縣令第四十五號

三八六

○兩宮宮城及神苑地附近家屋建設制限ノ件

三八九

○服忌令概表

# 神宮法規

## 神宮司廳

### 第一類

#### 官制 官等

俸給

任免

服制

賜金

雇員

○神宮司廳官制

明治二十九年十一月二十八日  
勅令第三百七十七號

朕神宮司廳官制ヲ裁訂シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 神宮司廳官制

第一條 神宮司廳ニ左ノ職員ヲ置ク

祭主 一人

大宮司 一人

少宮司 一人

禰宜 十人

權禰宜 二十人

明治三十三年九月二十六日勅令第三七六號ニ據リ修正ス

神宮司廳官制

宮一掌 四十人

- 第二條 祭主ハ親任トシ皇族ヲ以テ之ニ任ス大御手代トシテ奉齋シ祭事ヲ管理ス但公爵ヲ以テ之ニ任スルコトアルヘシ
- 第三條 大宮司ハ勅任又ハ奏任トス祭主ノ命ヲ承ケテ祭祀ニ奉仕シ諄辭ヲ奏讀シ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケテ所部ノ職員ヲ統督シ廳中ノ事務ヲ管理ス
- 第四條 大宮司ハ廳中ノ事務ヲ分掌スル爲メ課ヲ置キ及庶務ノ細則ヲ設クルコトヲ得
- 第五條 少宮司ハ奏任トス大宮司ヲ佐ケテ祭祀ニ奉仕シ廳中ノ事務ヲ整理ス
- 第六條 大宮司事故アルトキハ少宮司其ノ事務ヲ代理ス
- 第六條 禰宜ハ奏任トス大宮司又ハ少宮司ノ命ヲ承ケテ神前ニ祇候シ神膳ヲ供撤シ殿内一切ノ事ヲ辨シ臨時祈禱祓除ヲ爲シ廳中ノ庶務ニ從事ス
- 第七條 削除
- 第八條 權禰宜ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケテ神饌ヲ調理シ其他祭事及庶務ニ從事ス
- 第九條 宮掌ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケテ祭事及雜務ニ從事ス
- 第十條 大宮司ハ所屬判任官、神部署職員中判任待遇ノ官ニ在ル者及神宮衛士長衛士副長衛士ノ進退及懲戒ヲ内務大臣ニ具狀ス

明治三十三年九月二十  
六日勅令第  
三七八號ニ  
據リ修正ス

明治二十六年十月三十  
日勅令第一  
六七號同二

○神宮司廳職員官等俸給 明治三十三年三月三十日  
勅令第九十號  
朕神宮司廳職員官等俸給改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
神宮司廳職員官等俸給左表ノ通改正ス

勅任	奏任		判任									
	親任	二等	三等	四等								
官名	祭主	大宮司	大宮司	少宮司	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	權禰宜	權禰宜	宮掌	宮掌
年俸	三千四	千六百四	千四百五十四	千三百四十四	八百四十六	六百四十六	五百四十四	四百四十四	三百四十四	二百四十四	二百四十四	二百四十四

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○高等官官等俸給令 明治二十五年十一月十二日  
勅令第九十六號

朕茲ニ高等官官等俸給令ヲ裁可ス

高等官官等俸給令

官等及叙任

神宮司廳職員官等俸給 高等官官等俸給令



十八年九月  
二十日勅令  
第一二三號  
同三十二年  
四月八日勅  
令第一二七  
號同三十三年  
五月十九  
日勅令第一  
八九號ニ據  
リ修正ス

- 第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除ク外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ叙任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス
- 第二條 勅任官中親任式ヲ以テ叙任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ首座ノ大臣之ニ副署ス
- 第三條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除キ其他ノ勅任官ノ辭令書ハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス
- 第四條 奏任官ノ任官及叙等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス
- 第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス
- 第六條 高等官官等ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外本令中ノ文武高等官官等表ニ依ル官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシメ又ハ之ニ充ツル官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル
- 第七條 初メテ高等文官ニ任セラル、者ノ官等ハ六等以下トス  
高等文官ヲ勤メ退官シタル者再ヒ高等官ニ任セラル、場合ニ於テハ其官等ハ前官ノ官等以下トス但前官官等在職年數滿二年ヲ踰エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

- 前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得
- 第八條 高等官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタル者及七等以下ノ者ヲ除ク外在職滿二年ヲ踰ユルニ非サレハ陞叙スルコトヲ得ス
- 第八條ノ二 親任式ヲ以テ叙任セラル、官特命全權公使、内閣書記官長、各省官房長及辨理公使ニ任セラル、場合ニ於テハ第七條及第八條ヲ文官任用令第一條第四項ニ依リ勅任文官ニ任用セラル、場合ニ於テハ第七條ヲ適用セズ

俸給

- 第九條 高等文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ如シ  
(以下本條畧ス)
- 第十條 高等文官ノ俸給ニ關シテ別ニ定ムル所ナキモノハ總テ本令ノ規定ニ依ル  
陸海軍武官ノ俸給ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第十一條 同一ノ官職ニシテ官等ニ依リ其俸給ヲ異ニスルモノハ本令定ムル所ノ高等文官官等相當俸給表ニ依リ各其官等ニ照シテ之ヲ給ス
- 第十二條 同一官職ノ同一官等内ニ於テ其俸給ニ數級アル場合ニ於テハ其等級ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ本屬長官便宜之ヲ増減スルヲ得
- 第十三條 高等文官死亡シタルトキハ其在職中ナルトキハ其在職中ナルトキハ拘ハラズ在職最

終年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

終身官ハ其在職中死亡シタル者ニ限り前項ノ規定ニ依ル

第十四條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第十五條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第十六條 非職廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第十七條 非職廢官退官者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ

其間尙従前ノ年俸ヲ給ス

第十八條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサル

コト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又

ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此限ニアラス

第十九條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十條 本令ハ明治二十五年十一月二十日ヨリ施行ス但第十四條ハ明治二十六年一

月一日ヨリ施行ス

第二十一條 明治二十四年勅令第八十二號高等官任命及俸給令並ニ同年勅令第二百十

五號文武高等官官職等級表ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

俸給ニ關スル他ノ勅令ニ於テ明治二十四年勅令第八十二號中第一號表第二號表若ハ

第三號表ニ依ルヘキコトヲ規定セルモノハ本令施行ノ後ハ本令中同號ノ高等官年俸

各表ニ依ル

第二十二條 現任ノ高等官ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ左表ニ

依リ明治二十四年勅令第二百五號文武高等官官職等級表ニ規定シタル等級ト相對

照スル官等ニ叙セラレタルモノトス

現任判事檢事ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ現ニ受クル所ノ俸

給ニ照シ高等文官官等相當俸給表ニ定ムル所ノ相當官等ニ叙セラレタルモノトス

(以下表略ス)

○判任官俸給令 明治二十四年七月二十四日 勅令第八十三號

朕茲ニ判任官俸給令ヲ裁可ス

判任官俸給令

第一條 判任文官ノ月俸ヲ別テ十級トシ別表ニ依リ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス

第二條 陸海軍準士官下士ノ月俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ

判任官俸給令

判任官俸給令

明治二十五年十一月十日勅令第九十七號同三十年六月二

十二日勅令  
第二三三號  
同三十一年  
十月二十二  
日勅令第三  
一〇號ニ據  
リ修正ス

限ニアラス

第三條 判任官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス

但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニアラス

第四條 判任官最上級俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務練熟優等ナル者ハ特別ヲ以テ別表ノ範

圍ニ拘ラス漸次百圓マテ増俸スルコトアルヘシ

第五條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス非職者ニ於テモ亦同

シ但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スルモノヲ謂フ

第六條 前條ノ外俸給支給ニ關シテハ高等官官等俸給令第十五條第十六條第十七條第

十八條ノ例ニ依ル

第七條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第三十六號判任官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表略ス)

○官制及俸給令改正ノ際俸給支給方 明治二十四年八月一日  
勅令第六十五號

朕茲ニ官制及俸給令改正ノ際俸給支給方ノ件ヲ裁可ス  
官制又ハ俸給令ノ改正ニ依リ新ニ給スヘキ俸給ハ新令施行ノ當日ヨリ計算ス

○文官俸給支給細則 明治二十五年十二月二十三日  
大藏省令第十一號

文官俸給支給細則左ノ通り相定メ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス  
但明治二十三年當省令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

文官俸給支給細則

第一條 高等文官及判任文官ノ俸給ハ各廳左ノ日割定日ニ於テ支給スルモノトス但休

日ニ當ルトキハ順延トス

每月二十一日 外務省及其所管經費ニ關スル官廳  
大藏省及其所管經費ニ關スル官廳 內務省及其所管經費ニ關スル官廳

每月二十二日 陸軍省及其所管經費ニ關スル官廳  
司法省及其所管經費ニ關スル官廳 海軍省及其所管經費ニ關スル官廳

每月二十三日 文部省及其所管經費ニ關スル官廳  
遞信省及其所管經費ニ關スル官廳 農商務省及其所管經費ニ關スル官廳

第二條 非職廢官退官退職及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ其際支給スルモノトス

高等官官等俸給令第十七條ニ依リ殘務調理ヲ命セラレタルモノ其調理翌月以降ニ涉  
リ全月分ヲ支給スルモノハ第一條ノ支給定日ニ依ル但最後ノ月ハ日割ヲ以テ調理結  
了ノ日迄ヲ其際支給ス

第三條 轉任者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄ヲ甲應ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ乙應ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第四條 他應へ轉任シタルモノハ第一條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其際支給ス

第五條 他應へ轉任ノ際俸給過渡アルトキハ前任應ニ於テ其際之ヲ追徴スヘシ

第六條 俸給支給定日後他應ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任應ニ於テ其月ノ殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス

第七條 高等官官等俸給令第十八條ニ依リ減給ノ者非職廢官退官退職及死亡ノ時ハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

第八條 傷痍忌引若クハ特旨賜暇ノ場合ハ病氣若クハ私事故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ闕勤日數中ニ算入セス又病氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セ

第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス  
日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

○神宮司應職員任用令 明治三十五年二月八日 勅令第三十號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ神宮司應職員任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神宮司應職員任用令

神宮司應職員ハ文官任用令ノ規定ニ拘ラス之ヲ任用スルコトヲ得

○神宮大宮司少宮司初叙陞叙轉任 明治三十五年二月八日 勅令第三十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ神宮大宮司及少宮司ノ初叙及陞叙並他官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神宮大宮司及少宮司ノ初叙及陞叙ノ官等ハ高等官官等俸給令第七條及第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

前項ニ依リ初叙又ハ陞叙セラレタル者他官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ニ關シテハ明治三十年勅令第九十七號ノ規定ヲ準用ス

〔參照〕

○勅令第九十七號(明治三十年六月十六日)

第一條 本年勅令第九十六號ニ依リ高等官五等以上ノ秘書官ニ任用セラレタル者又ハ同令ニ依リ在職年數ニ拘ラス陞等シタル者他ノ委任文官ニ轉任シ又ハ其官ヲ退キ他ノ委任文官ニ再任スル場合ニ於ケル官等ハ本令ノ規程ニ依ル

第二條 秘書官ニ初任シタル者ニ在テハ高等官六等以下トス但シ秘書官在職年數ニ應シ高等官官等俸給令第八條ニ依リ六等ニ對シ一等若ハ數等ヲ陞叙スルコトヲ得

第三條 在職年數ニ拘ラス陞等シタル者ニ在テハ前發任文官又ハ本令施行ノ際ニ於ケル秘書官ノ官等以下トス但シ秘書官在職年數ニ應シ高等官官等俸給令第八條ニ依リ同前官又ハ本令施行ノ際ニ於ケル秘書官ノ官等ニ對シ一等若ハ數等ヲ陞叙スルコトヲ得其ノ前官又ハ本令施行ノ際ニ於ケル秘書官ノ官等七等以下ノ者ニ在テハ第二條ノ例ニ準ス

第四條 第二條第三條ニ依リ他ノ發任文官ニ轉任又ハ再任シタル者ノ陞等ニ關シテハ其ノ秘書官タル前ノ他官官等在職年數本令施行前ノ秘書官官等在職年數並ニ轉任又ハ退官現時ノ秘書官官等在職年數ヲ通算ス

○文官分限令

明治三十二年三月二十七日  
勅令第六十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官分限令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官分限令

第一條 本令ハ親任式ヲ以テ叙任スル官、公使、秘書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官ニ適用ス

第二條 官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非レハ其ノ官ヲ免セラル、コトナシ

第三條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

一 不具、廢疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ  
前項第一號ニ依リ其官ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス

第四條 官吏ハ廢官若ハ廢廳ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第五條 第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス

第六條 官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラル、コトナシ

第七條 文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク

審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第八條 文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク

第九條 懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ

第十條 第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

- 一 懲戒令ノ規定ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ
  - 二 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ
  - 三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
  - 四 官廳事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ
- 前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在テハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在テハ滿三年トス
- 第十二條 休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職官吏ト異ナルコトナシ
- 前條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得
- 第十三條 第十一條ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス
- 第十四條 免官ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣、奏任官ニ在テハ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ
- 休職ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在テハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ス其ノ復職ヲ命スルトキ亦同シ

附則

第十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏非職條令、明治二十三年勅令第二百八十六號其ノ他從前ノ命令ニシテ本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條 本令施行前官吏非職條例又ハ明治二十三年勅令第二百八十六號ニ依リ非職又ハ休職ヲ命セラレ未タ滿期ニ至ラサル者ハ本令第十一條第一項第四號ノ休職者ニ關スル規定ヲ適用ス但シ本令第十三條ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 本令中休職トアルハ他ノ法令ニ於テ規定スル非職ト看做

○神官神職服制 明治二十七年一月三十一日 勅令第六號

朕神官神職服制ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神官神職服制

- 第一條 神官神職服制ハ別表ノ通定ム
- 第二條 神官神職ノ制服ハ正服客服及齋服トス
- 第三條 正服ハ大禮ノ場合ニ着用スルモノトス
- 第四條 大禮トハ天皇三后皇太子皇太孫御參拜、勅使奉幣、大祭、朝拜、參賀及謁見ヲ云フ
- 第四條 畧服ハ小禮ノ場合ニ着用スルモノトス

明治三十三年九月二十六日勅令第三七九號ニ據リ修正ス







ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス

本令施行前ニ滿年賜金若クハ一時賜金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ賜金ヲ受ケタル者再ヒ任官シ自後退官シタルトキハ前項ニ掲ケタル在官年數ヲ其再任ノ日ヨリ起算ス

恩給ヲ受クル者竝自巳ノ便宜ニ山リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ由リ免官シタル者ニハ本令ノ賜金ヲ給セス

本令ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

○官吏療治料給與ノ件 明治二十五年九月二十六日勅令第八十號

朕官吏療治料給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏ニシテ職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料實費ヲ以テ給與ス

但府縣ノ收入ヨリ給料ヲ受クル者ノ療治料ハ其府縣ノ負擔トス

○神宮雇員ニ關スル規則 明治三十三年十月二日內務省訓第九三五號

神宮 宮司

明治三十年三月一日常省訓第一八三號神宮雇員ニ關スル件左ノ通り改正シ明治三十三年二月神宮

司應職員俸給支給規則  
消滅ノ結果  
第五條消滅

年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

神宮雇員ニ關スル規則

第一條 神宮司應ニ出仕ノ名義ヲ以テ三十五人ノ雇員ヲ置キ雜務ニ從事セシメ樂員ノ名義ヲ以テ十人樂員試補ノ名義ヲ以テ五人ノ雇員ヲ置キ奏樂ニ從事セシム

第二條 神部署ニ三十三人ノ雇員ヲ置キ雜務及奏樂ニ從事セシム

第三條 神宮司應ノ雇員ハ神宮宮司之ヲ命免シ神部署ノ雇員ハ神部署長之ヲ命免ス

第四條 雇員ノ月俸ハ十五圓ヲ超ユルコトヲ得ス但本大臣ノ認可ヲ經タルトキハ此限リニアラス

第五條

第六條 出仕ノ定員中十三人及樂員樂員試補ハ當分ノ內神部署雇員中ヨリ兼務ヲ命スルモノトス

○出仕樂員樂員試補等級及俸給表 明治三十三年六月二十七日達第二五號

明治三十年三月達第八號全三十一年五月達第一〇號神宮司應出仕樂員樂員試補等級及俸給ヲ左表ノ通改定ス

但明治三十一年五月達第九號樂員樂員試補手當金支給規則ハ本年六月三十日限り廢

神宮雇員ニ關スル規則 出仕樂員樂員試補等級及俸給表

止ス

出仕樂員等級及俸給表

等級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
出仕	十四圓	十三圓	十二圓	十一圓	十圓	九圓	八圓	七圓

樂員試補等級及俸給表

等級	一等	二等	三等	四等	五等
樂員試補	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓

附則

技能ヲ以テ一級俸ヲ受ケタル樂員ハ爾後勤功ニヨリ詮議ノ上左ノ特別手當ヲ附スルコトアルヘシ

等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等
月手當	六圓	五圓	四圓	三圓	二圓	一圓

本件ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

○攝末社守衛等級及年手當金 明治三十五年二月二十八日 連第一三號  
攝末社守衛等級及年手當金左表之通改正ス

攝末社守衛等級及年手當金表

等級	一等	二等	三等	四等
年手當	自金七圓 至金八圓	自金五圓 至金六圓	自金四圓 至金四圓拾錢	自金參圓 至金參圓五錢

○神宮傭人給與規程 明治三十五年二月二十八日 連第一六號

神宮傭人給與規程左之通相定メ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス  
但明治三十年達第四號ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

神宮傭人給與規程

第一條 神宮傭人ノ給料ハ總テ本規程ニ據リ之ヲ支給ス  
第二條 給料ハ雇入及増給減給トモ其當日ヨリ又解雇ノトキハ其當日マテ之ヲ支給ス

第三條 日給ハ勤務日數ニ依リ之ヲ支給ス

左ノ場合ニ於テハ給料ヲ支給ス但忌引ニ付テハ其日數ノ五分ノ一トシ端數ハ一日ニ計算ス

- 一 公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ
- 二 正忌日
- 三 忌引

第四條 年給及月給ノ備人ニシテ病氣又ハ私事故障ノ爲メ勤務セサル日數ハ第三條ノ

例ニ依リ日割ヲ以テ支給ス

第五條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集セラレタルトキハ其召集ニ應シタル日ヨリ解隊

出勤ノ前日マテ給料ヲ支給セス

第六條 消防夫ノ給料ハ年四回(三月六月九月三月)其他ノ年給ハ年二回(上半年分ハ其年九月下半年分ハ翌年三月)二月給、

日給ハ其月分ヲ翌月三日ニ支給シ十二月ハ特ニ其月二十八日ニ支給ス但休應日ニ當ルトキハ繰上トス

第七條 給料ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス

第八條 日割計算ノ法ハ總テ其月ノ日數ニ由ル

○神宮衛士長以下俸給支給ノ件 明治三十五年二月二十八日 達第一八號  
 神宮衛士長、衛士副長、衛士及出仕ノ俸給並古事類苑編纂事務所員、神宮故事編纂員ノ報酬金及書記ノ俸給支給方ハ神宮司應職員俸給支給ノ例ニ依ル但出仕ノ俸給支給期日ハ毎月二十三日トシ休應日ニ當ルトキハ繰下トス

### 附 錄

○官役人夫死傷手當規則 明治八年四月九日 大政官第五十四號達書

院省使廳府縣

官廳ノ諸工事ニ使役スル者其職事ノタメニ死傷候節ハ自今左ノ規則ニ照準シ處分可致此旨相達候事

但本文手當金ノ儀院省使廳ハ定額金ノ内ヨリ府縣ハ豫備金ノ内ヨリ繰替仕拂置追テ別途請取方大藏省へ可申出事

官役人夫死傷手當規則

第一條 凡ソ各廳ニ於テ工事ニ使役スル者死傷スルトキハ相當ノ手當ヲナスヘシ其傷

疾ノ輕重ヲ分テ五等トス左ノ如シ

第一等 重傷死ニ至ル者

第二等 重傷死ニ至ラスト雖モ終身自用ヲ辨スル能ハサル者

第三等 自己ノ動作ヲ得ルト雖モ終身事業ヲ營ムコト能ハサル者

第四等 營ヘ事業ヲ營ムコトヲ得ルト雖モ身體ヲ毀傷シテ舊ニ復スルコトヲ得サル者

第五等 身體ヲ毀傷スルト雖モ一時ノ治療ヲ以テ舊ニ復スルコトヲ得ル者

第二條 凡ソ死傷人アル時ハ其原山ト輕重トヲ檢察シ醫員ノ診斷証書ヲ審査シ表面ニ

照シテ救助金ヲ與フヘシ

第三條 手當金ヲ分ツテ療養扶助埋葬ノ三種トス

一 一等傷ニ罹リ死スル者ハ療養料扶助料埋葬料ヲ給與ス若シ遺族ナケレハ扶助料

ヲ給セス

但即死シテ療治ニ掛ラサル者ハ療養料ヲ給セス且療養中全ク他病ノタメニ

死スル者ハ扶助料ヲ給セス

一 二等三等四等傷ニ罹ル者ハ療養料扶助料ヲ給與スヘシ

一 五等傷ニ罹ル者ハ療養料ノミヲ給與スヘシ

第四條 傷疾ノ輕重ハ即時ニ確定シ難シト雖モ其實況ヲ見計ヒ即時ニ療養料ヲ給シ置

キ治療ノ後醫員貳名以上ノ診斷証書ト其容體トヲ審査シ相當ノ給與スヘシ

死傷手當表

		一等傷	二等傷	三等傷	四等傷	五等傷
扶助料	參拾圓	貳拾圓	拾五圓	拾圓		
埋葬料	拾圓					
療養料	同	上	同	上	同	上

疵ノ輕重ニヨリ  
程度ヲ量テ給ス

第貳類

祭典

神寶

寶物

○神宮大祭公式祭區別 明治二十七年五月九日  
內務省訓第三二七號

神宮司廳

第一條 皇大神宮及豐受大神宮ノ大祭ハ左之通心得ヘシ

- 一 神嘗祭
  - 二 祈年祭
  - 三 神御衣祭 皇大神宮及荒祭宮ニ限ル
  - 四 月次祭
  - 五 新嘗祭
  - 六 臨時奉幣式
  - 七 正遷宮
- 第二條 皇大神宮及豐受大神宮ノ公式ノ祭祀ハ左之通心得ヘシ
- 一 元始祭
  - 二 紀元節
  - 三 天長節
  - 四 歲旦
  - 五 風日祈祭
  - 六 遙拜式
  - 七 大祓

○神宮諸祭典日時

皇大神宮ノ部

○歳旦大御饌

皇大神宮

一月一日

午前四時

荒祭宮

同

正宮祭儀  
畢九後

月讀宮

同

午前五時

月讀荒御魂宮

同

同

伊佐奈岐宮

同

同

瀧原宮

同

同

瀧原竝宮

同

同

伊雜宮

同

同

風日祈宮

同

同

瀧祭神

同

同

○元始祭大御饌

皇大神宮

一月三日

午前七時

荒祭宮

月讀宮

月讀荒御魂宮

伊佐奈岐宮

伊佐奈彌宮

瀧原宮

瀧原竝宮

伊雜宮

風日祈宮

瀧祭神

○御饌 皇大神宮四丈殿ニ於テ供進

皇大神宮並受大神宮及別宮以下各諸神

○ 一月十一日

午前十時

○

孝明天皇遙拜

一月三十日

午前八時

正宮祭儀  
畢九後

午前八時

大祓

一月三十一日 午後三時

皇大神宮

二月四日

荒祭宮

同

月讀宮

同

月讀荒御魂宮

同

伊佐奈岐宮

同

伊佐奈彌宮

同

瀧原宮

同

瀧原竝宮

同

伊雜宮

同

風日祈宮

同

瀧祭神

同

○紀元節大御饌

二月十一日

皇大神宮

同

荒祭宮

午後十二時

正宮祭儀  
畢ル後

午後一時

同

同

同

同

同

同

同

同

午前七時

正宮祭儀  
畢ル後

月讀宮	同	午前八時
月讀荒御魂宮	同	同
伊佐奈岐宮	同	同
伊佐奈彌宮	同	同
瀧原宮	同	同
瀧原竝宮	同	同
伊雜宮	同	同
風日祈宮	同	同
瀧祭神	同	同
○祈年祭奉幣		
皇大神宮	二月十七日	午後一時
荒祭宮	同	正宮祭儀 畢ル後
月讀宮	同 十八日	午後一時
月讀荒御魂宮	同	同
伊佐奈岐宮	同	同
伊佐奈彌宮	同	同

瀧祭神	同	同
瀧原宮	同 二十日	午後一時
瀧原竝宮	同	同
伊雜宮	同	同
風日祈宮	同	同
○神武天皇遙拜	四月三日	午前八時
○大祓	四月三十日	午後三時
○神御衣奉織始祭	五月一日	午前八時
○神御衣鎮謝祭	五月十三日	午前八時
○風日祈祭	五月十四日	午前九時
皇大神宮	同	正宮祭儀 畢以後
荒祭宮	同	同

月讀宮	同	午前十時
月讀荒御魂宮	同	同
伊佐奈岐宮	同	同
伊佐奈彌宮	同	同
瀧原宮	同	同
瀧原竝宮	同	同
伊雜宮	同	同
風日祈宮	同	同
瀧祭神	同	同
○神御衣祭	五月十四日	午前十一時
皇大神宮	同	正宮祭儀 畢以後
荒祭宮	同	同
○大祓	五月三十一日	午後六時
○興玉神祭	六月十五日	午後六時



御下 ○ 六月十五日 午後七時

○月次祭夕朝大御饗

皇大神宮 六月十六日 午後十時

荒祭宮 六月十七日 正宮祭儀 午後十時

瀧祭神 同 午後十時

月讀宮 同 午後十時

月讀荒御魂宮 同 午後十時

伊佐奈岐宮 同 午後十時

伊佐奈彌宮 同 午後十時

瀧原宮 同 午後十時

瀧原竝宮 同 午後十時

伊雜宮 同 午後十時

風日祈宮 同 午後十時

○月次祭奉幣

皇大神宮 六月十七日 午後五時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

同 同 午後十時

荒祭宮 同 正宮祭儀 午後三時

瀧祭神 同 午前八時

月讀宮 同 午前八時

月讀荒御魂宮 同 午前八時

伊佐奈岐宮 同 午前八時

伊佐奈彌宮 同 午前八時

瀧原宮 同 午前八時

瀧原竝宮 同 午前八時

伊雜宮 同 午前八時

風日祈宮 同 午前八時

○ 大祓 六月三十日 午後六時

○風日祈祭 八月四日 午前七時

皇大神宮 同 正宮祭儀 午前八時

荒祭宮 同 午前八時

月讀宮 同 午前八時



風日祈宮

同

同

御神樂

十月十六日

夜

○神嘗祭奉幣

皇大神宮

十月十七日

午後五時

荒祭宮

同

正宮祭儀  
畢以後

瀧祭神

同 十九日

午前八時

月讀宮

同

午前八時

月讀荒御魂宮

同

同

伊佐奈岐宮

同

同

伊佐奈彌宮

同

午前八時

瀧原宮

同 二十三日

午前八時

瀧原竝宮

同

同

伊雜宮

同 二十五日

午前八時

風日祈宮

同

同

大祓

十月三十一日

午後四時

○天長節大御饗

皇大神宮

十一月三日

午前六時

荒祭宮

同

正宮祭儀  
畢以後

月讀宮

同

午前七時

月讀荒御魂宮

同

同

伊佐奈岐宮

同

同

伊佐奈彌宮

同

同

瀧原宮

同

同

瀧原竝宮

同

同

伊雜宮

同

同

風日祈宮

同

同

瀧祭神

同

同

○新嘗祭大御饗

皇大神宮

十一月二十三日

午前十一時

荒祭宮

同

正宮祭儀  
畢以後

瀧祭神	同		午前十一時
月讀宮	同	二十四日	午前十二時
月讀荒御魂宮	同		同
伊佐奈岐宮	同		同
伊佐奈彌宮	同		同
瀧原宮	同	二十六日	午前十一時
瀧原竝宮	同		同
伊雜宮	同		同
風日祈宮	同		同
○新嘗祭奉幣			
皇大神宮	同	十一月二十三日	午後二時
荒祭宮	同		正宮祭儀 畢午後
月讀宮	同	二十四日	午後二時
月讀荒御魂宮	同		同
伊佐奈岐宮	同		同
伊佐奈彌宮	同		同

瀧祭神	同		午後二時
瀧原宮	同	二十六日	午後二時
瀧原竝宮	同		同
伊雜宮	同		同
風日祈宮	同		同
○大祓			
		十一月三十日	午後三時
○興玉神祭			
		十二月十五日	午後三時
御卜			
		十二月十五日	午後五時
○月次祭夕朝大御饗			
皇大神宮	同	十二月十六日	午後二時
荒祭宮	同	十七日	正宮祭儀 畢午後
瀧祭神	同		午後二時
月讀宮	同	十八日	午後二時
	同	十九日	午後二時

月讀荒御魂宮	同		同
伊佐奈岐宮	同		同
伊佐奈彌宮	同		同
瀧原宮	同	二十二日	午後二時
瀧原竝宮	同	二十三日	午後二時
伊雜宮	同	二十四日	午後二時
伊雜宮	同	二十五日	午後二時
風日祈宮	同		同
○月次祭奉幣			
皇大神宮	十二月十七日	午後五時	正宮祭儀 畢後
荒祭宮	同	同	同
瀧祭神	同	十九日	午前八時
月讀宮	同	同	同
月讀荒御魂宮	同	同	同
伊佐奈岐宮	同	同	同
伊佐奈彌宮	同	同	同
瀧原宮	同	二十三日	午前八時

瀧原竝宮	同		同
伊雜宮	同	二十五日	午前八時
風日祈宮	同		同
○大祓			
豐受大神宮ノ部	十二月三十一日	午後三時	
○歲旦大御饌			
豐受大神宮	一月一日	午前九時	正宮祭儀 畢後
多賀宮	同	午前十時	同
土宮	同	同	同
月夜見宮	同	同	同
風宮	同	同	同
○元始祭大御饌			
豐受大神宮	一月三日	午十二時	正宮祭儀 畢後
多賀宮	同	同	同

土宮

同

午後一時

月夜見宮

同

同

同

風宮

同

同

同

○祈年祭大御饌

豐受大神宮

二月四日

午前七時

多賀宮

同

正宮祭儀  
畢ル後

土宮

同

午前八時

月夜見宮

同

同

風宮

同

同

○紀元節大御饌

豐受大神宮

二月十一日

午十二時

多賀宮

同

正宮祭儀  
畢ル後

土宮

同

午後一時

月夜見宮

同

同

風宮

同

同

○祈年祭奉幣

豐受大神宮

二月十七日

午前八時

多賀宮

同

正宮祭儀  
畢ル後

土宮

同 十八日

午後一時

月夜見宮

同

同

風宮

同 二十日

午後一時

○風日祈祭

豐受大神宮

五月十四日

午後三時

多賀宮

同

正宮祭儀  
畢ル後

土宮

同

午後四時

月夜見宮

同

同

風宮

同

同

○月次祭夕朝大御饌

豐受大神宮

六月十五日

午後二時

多賀宮

同 十六日

正宮祭儀  
畢ル後

土宮

同 十八日

午後二時

月夜見宮

同

同

風宮

同 二十四日  
二十五日

午後十時  
午前二時

○月次祭奉幣

豐受大神宮

六月十六日

午後五時

多賀宮

同

正宮祭儀  
畢後

土宮

同 十九日

午前八時

月夜見宮

同

同

風宮

同 二十五日

午前八時

○風日祈祭

豐受大神宮

八月四日

午後十二時

多賀宮

同

正宮祭儀  
畢後

土宮

同

午後一時

月夜見宮

同

同

風宮

同

同

○神嘗祭夕朝大御饌

豐受大神宮

同 十月十五日  
十六日

午後十二時  
午前二時

多賀宮

同

正宮祭儀  
畢後

土宮

同

十八日

午後十二時

月夜見宮

同

十九日

同

風宮

同

二十四日  
二十五日

午後十二時  
午前二時

○

御神樂

十月十五日

夜

○神嘗祭奉幣

豐受大神宮

十月十六日

午後五時

多賀宮

同

正宮祭儀  
畢後

土宮

同

十九日

午前八時

月夜見宮

同

同

風宮

同 二十五日

午前八時

○天長節大御饌

豐受大神宮

十一月三日

午前十一時

多賀宮

同

正宮祭儀  
畢後

土宮

同

午後十二時

月夜見宮

同

同

風宮

同

同

○新嘗祭大御饗

豐受大神宮

十一月二十三日

午前四時

多賀宮

同

二十四日

午前十一時

土宮

同

同

同

月夜見宮

同

同

午前十一時

風宮

同

二十六日

午前十一時

○新嘗祭奉幣

豐受大神宮

十一月二十三日

午前七時

多賀宮

同

同

午前七時

土宮

同

二十四日

午後二時

月夜見宮

同

同

同

風宮

同

二十六日

午後二時

○月次祭夕朝大御饗

豐受大神宮

十二月十五日

午後十時

多賀宮

同

同

午前二時

土宮

同

同

同

月夜見宮

同

同

午後二時

風宮

同

同

午前二時

○月次祭奉幣

豐受大神宮

十二月十六日

午後五時

多賀宮

同

同

午後五時

土宮

同

十九日

午前八時

月夜見宮

同

同

同

風宮

同

同

午前八時

○

皇大神宮攝社三十三社

皇大神宮末社十六社

皇大神宮所管神社十二社

瀧原宮所管神社三社

伊雜宮所管神社一社



佐美長神社御前社四社  
 神服織機殿神社末社八社  
 神麻績機殿神社末社八社  
 右 皇大神宮諸祭典毎ニ(神御衣祭ヲ除ク)各定日其祭典ニ預ル  
 祓所神  
 八百萬神  
 右 五月八月風日祈祭ニ預ル  
 豐受大神宮攝社十七社  
 豐受大神宮末社八社  
 豐受大神宮所管神社四社  
 右 豐受大神宮諸祭典毎ニ各定日其祭典ニ預ル

○日別朝夕大御饗奉奠時間 明治二十六年十二月十二日 告第九號

日別朝夕大御饗奉奠時間本月十五日ヨリ左之通改定ス

自四月至九月

朝 午前第八時 夕 午後第五時

自十月至三月

朝 午前第九時 夕 午後第四時

○儀仗兵之件 明治九年三月二十八日 式部寮達

神宮祈年祭

神宮神嘗祭

神宮新嘗祭

右御祭典之節爲儀仗步兵一中隊被差出候條爲御心得及御達候也

○宣命ヲ御祭文ト改稱ノ件 明治六年四月三日 大政官第百二十三號 布告  
 従前ノ宣命ヲ自今御祭文ト被改稱候事

○諸祭典齋宿常典御饗宿衛分課ノ件 明治三十五年二月二十八日 達第一五號  
 明治三十一年達第三三三號ヲ左ノ通改定ス

- 一 諸祭典並齋宿常典御饗奉仕及各宿衛屋詰ハ儀式課ヲシテ分課ヲ發セシム
- 一 齋宿常典御饗及宿衛分課ヲ受ケ止ヲ得サル事故アルモノハ同一ノ分課ニ限リ交換

儀仗兵ノ件 宣命ヲ御祭文ト改稱ノ件  
 諸祭典齋宿常典御饗宿衛分課ノ件

勤務ヲナスコトヲ得

但交換勤務ヲナス場合ニハ連署ヲ以テ其旨儀式課ニ申出ツヘシ

○東西寶殿及外幣殿管理規定 明治三十年十二月一日  
達第二六號  
東西寶殿及外幣殿管理規定別紙之通伺定ム

東西寶殿及外幣殿管理規定

第一條 兩宮東寶殿ハ幣帛及神御衣並臨時御奉納品及宣命等ヲ納ムル所トス

第二條 兩宮西寶殿ハ前回遷宮ノ時奉進セラレタル御裝束神寶等ヲ納ムル所トス

第三條 兩宮外幣殿ハ撤下ノ御船代御玉奈井等ノ本様トシテ保存ノ分及古神寶類ヲ納ムル所トス

第四條

兩宮東西寶殿及外幣殿ノ鑰匙ハ筐筥ニ容レ儀式課長之ニ封緘ヲナシ兩宮參集

所ニ格護シ齋宿ノ禰宜之ヲ監守ス

第五條 兩宮東西寶殿及外幣殿ノ開閉ハ大宮司ノ指揮ヲ受ケ儀式課長及神官タル課員

二名潔齋ヲナシ之ヲ行フ

但祭式ニ關スル開閉ハ祭式ニ定ムル所ニ依ル

第六條 兩宮東西寶殿及外幣殿ニ納ムル所ノ御物ハ帳簿ヲ備ヘ置キ名稱數量及出納ノ

年月日ヲ明瞭ニ記載ス

第七條 年中恒例ノ幣帛及神御衣ハ毎年神嘗祭舉行ノ後東寶殿ヨリ撤下シ又遷宮ノ都度其年度ヨリ遡テ前二回ノ遷宮ニ奉進セラレタル御裝束神寶ハ西寶殿ヨリ撤下ス

但其處分方法ニ關シテハ內務省ノ認可ヲ乞フモノトス

○撤下御物陳列所規程 明治三十四年五月十一日  
達第二五號

撤下御物陳列所規程左之通定ム

撤下御物陳列所規程

第一條 入場門ハ午前七時三十分ニ開キ午後四時三十分ニ閉ツ

第二條 拜觀人入場時間ハ午前八時ヨリ午後四時限トス

第三條 拜觀人ハ拜觀券所持ノモノトス

第四條 拜觀ヲ許可スヘキモノ左ノ如シ

一 判任官待遇以上ノモノ

二 有位有勳褒章佩用者

三 神苑會會員

四 神宮奉齋會特別會員

撤下御物陳列所規程

- 五 日本赤十字社正社員以上ノモノ
- 六 神樂殿交附拜觀券所持ノモノ
- 七 特ニ拜觀ヲ許可セシモノ
- 第五條 拜觀人多數ニシテ場内混雜ノ虞アルトキハ一時入場ヲ停止ス
- 第六條 拜觀人ニシテ拜觀人心得ニ違背セシモノハ入場ヲ拒絕シ又ハ直ニ退出セシム
- 第七條 拜觀人ニシテ左記ノモノト認定スルトキハ入場ヲ禁止ス
  - 一 發狂人
  - 二 亂醉者

○撤下御物陳列所監督員ノ件 明治三十四年五月十一日 達第二六號

撤下御物陳列所ニ監督員二名ヲ置キ儀式課員ヲ以テ之ニ充テ左ノ事務ヲ掌ラシム  
儀式課長ノ指揮ヲ承ケ監守人ヲ監督シ時々所内ヲ巡檢シ其整理ノ責ニ任ス

○神宮寶物保管規程 明治三十五年二月三日 達第六號

神宮寶物保管規程左ノ通定ム

神宮寶物保管規程

- 第一條 神宮寶物ハ儀式課ニ於テ之ヲ保管ス保管主任ハ儀式課長トス
- 第二條 寶物ハ臺帳ニ登載シテ之ヲ保管スヘシ  
寶物臺帳ハ參冊ヲ設備シ各同一ニ登錄シ大宮司之ニ檢印シ壹冊ハ内務省ニ壹冊ハ神宮司廳ニ壹冊ハ寶庫ニ收藏スヘシ
- 第三條 寶庫ノ鍵鑰ハ大宮司並ニ保管主任ニ於テ封紙ヲ施シ保管主任之ヲ管守ス
- 第四條 寶庫ノ開閉ハ寶物保管主任若クハ保管主任ノ委任シタル吏員ニ於テ其都度大宮司ニ申告シ大宮司若クハ大宮司ノ命シタル高等官ノ立會ヲ要ス
- 第五條 寶物ハ毎年春秋二回手入並ニ曝涼シ其都度大宮司之ヲ檢閱シ寶物臺帳ニ檢印スヘシ  
前項大宮司ノ檢印ヲ以テ物品會計規則第十八條ノ調書ニ代フ
- 第六條 寶物保管主任交代ノトキハ前條ニ準シ大宮司ニ於テ檢閱ヲ行フモノトス
- 第七條 寶物ノ亡失毀損及其他異狀アルトキハ直ニ大宮司ニ申告スヘシ
- 第八條 寶物ハ一切出納ヲ行ハザルモノトス

第三類

處務 勤務 旅行

明治三十四

年九月三十

日達第四〇

號ニ據リ修

正ス

○神宮司廳處務細則 明治三十三年十二月二十六日達第五〇號

明治二十九年十二月二十六日達第二三號神宮司廳處務細則左ノ通改定ス

神宮司廳處務細則

第一章 分課組織

第一條 神宮司廳ニ宮司官房及總務儀式庶務會計土木用度ノ六課ヲ置ク

第二條 課中各係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第三條 宮司官房ニ書記若干人ヲ置キ權禰宜宮掌ノ内ヲ以テ之ニ充テ大少宮司ニ直隸シ其事務ヲ處理セシム

第四條 總務課ニ課長一人參事十人書記若干人ヲ置キ課長ハ少宮司參事ハ權禰宜書記ハ權禰宜宮掌ノ内ヲ以テ之ニ充テ其他ノ各課ニハ課長一人課僚若干人ヲ置キ課長ハ權禰宜ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 課長事故アルトキハ同課又ハ他課ノ權禰宜ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第六條 課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ處理ス

第七條 課僚ハ課長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第二章 分課章程

第八條 宮司官房ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 機密ニ關スル事項
- 二 宮司ノ官印及廳印ノ管守ニ關スル事項
- 三 古書類苑編纂ニ關スル事項

第九條 總務課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 令達及諸規則調査ニ關スル事項
- 二 豫算及決算審査ニ關スル事項
- 三 五百圓以上支出ヲ要スル臨時事件ノ調査ニ關スル事項
- 四 前三項ノ外重要事務調査ニ關スル事項

第十條 儀式課ハ左ノ事務ヲ掌ル

儀式課

祭事係

- 一 祭事及儀式ニ關スル事項
- 二 殿舎及御敷地祭庭ニ關スル事項

三 神殿ノ御鑰御匙ノ管守ニ關スル事項

四 御眞影ニ關スル事項

五 御馬牽進等ニ關スル事項

六 各宿衛ニ關スル事項

七 諸社守衛ニ關スル事項

尙古係

一 古典舊儀考証ニ關スル事項

二 神宮歴史編輯ニ關スル事項

三 撤下御物ニ關スル事項

四 寶庫ニ關スル事項

五 貴重ノ奉納物保存ニ關スル事項

第十一條 庶務課ハ左ノ事務ヲ掌ル

庶務課

常務係

- 一 令達告示報告及諸規則ノ立案ニ關スル事項
- 二 職員ノ身分ニ關スル事項

- 三 廳中取締ニ關スル事項
- 四 衛生ニ關スル事項
- 五 常直ニ關スル事項
- 六 新聞ノ查閱ニ關スル事項
- 七 官房及各課ノ主管ニ屬セサル事項  
文書係
- 一 公文ノ淨書ニ關スル事項
- 二 公文書ノ接受及發送ニ關スル事項
- 三 統計ニ關スル事項
- 四 官報報告ニ關スル事項  
記錄係
- 一 公文書類ノ編纂ニ關スル事項
- 二 記錄ノ保存ニ關スル事項
- 三 重要事件ノ記述ニ關スル事項  
學務係
- 一 神宮皇學館其他學事ニ關スル事項

圖書係

- 一 圖書ニ關スル事項
  - 二 圖書購入ニ關スル事項
  - 三 官報其他新聞雜誌ノ保存ニ關スル事項
- 第十二條 會計課ハ左ノ事務ヲ掌ル

會計課

調査係

- 一 神宮費及神宮別途費、神宮皇學館費、古事類苑編纂印刷費、神宮故事編纂費豫算ニ關スル事項
- 二 金錢收支ノ調査ニ關スル事項
- 三 會計ノ諸規則ニ關スル事項
- 四 爲換方ニ關スル事項  
收支係
- 一 金錢收支ニ關スル事項
- 二 公債證書ニ關スル事項
- 三 諸受負人保證金ニ關スル事項

記簿係

- 一 金錢收支ノ帳簿ニ關スル事項
- 二 金錢收支ノ票證書類整理ニ關スル事項
- 三 帳簿票證書類保管ニ關スル事項
- 四 神宮費及神宮別途費、神宮皇學館費、古事類苑編纂印刷費、神宮故事編纂費決算ニ關スル事項

第十三條 土木課ハ左ノ事務ヲ掌ル

土木課

營繕係

- 一 營造物ノ建築及修繕ニ關スル事項
- 二 建築修繕ノ設計ニ關スル事項
- 三 建物臺帳ニ關スル事項
- 四 建物及附屬物件ノ處分ニ關スル事項
- 神地係
- 一 宮域及附屬地ニ關スル事項
- 二 山林ニ關スル事項

- 三 宮域及附屬地掃除ニ關スル事項
- 四 土地臺帳ニ關スル事項
- 五 枯損木處分ニ關スル事項
- 六 土地購入ニ關スル事項
- 七 道路堤防溝渠ニ關スル事項
- 八 山林巡視掃除人夫ノ進退身分及其賞與ニ關スル事項

第十四條 用度課ハ左ノ事務ヲ掌ル

用度課

保管係

- 一 備品ノ保管ニ關スル事項
- 二 物品購入ニ關スル事項
- 三 物品ノ出納ニ關スル事項
- 四 不用物品ノ處分ニ關スル事項
- 五 物品臺帳ニ關スル事項
- 六 生産物ニ關スル事項
- 給與係

- 一 給與品貸與品ニ關スル事項
- 二 郵便電信及運搬ニ關スル事項
- 三 諸雇人ノ進退身分及賞與ニ關スル事項
- 四 諸備給等ニ關スル事項
- 五 諸賄ニ關スル事項

第三章 庶務順序

第十五條 凡ソ本廳ニ到達スル文書ハ庶務課ニ於テ收受開緘シ月日番號件名差出元(金物品等添附アルトキハ其金額員數トモ)等ヲ受付件名簿ニ登記シ且番號月日ヲ本書ニ掲記シ主務課長ニ交付スヘシ

親展書ハ受渡簿ニ月日番號差出人宛名等ヲ記入シ名宛人ニ交付スヘシ  
親展書トシテ到着セシモノ及當直ヨリ直ニ配布ヲ受ケタルモノ並ニ出張先ニテ受取タルモノト雖受付件名簿ニ記入ヲ要スルモノハ庶務課ニ回付シ第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 各課關係ノ文書ハ關係ノ重キ課ニ交付スヘシ

第十七條 收受ノ文書ハ即日之ヲ配布スヘシ但退應時間三十分前ニ到達シタルモノハ至急ヲ要スルモノノ外翌日配布スルコトヲ得

第十八條 退應時間ヨリ翌日參應時間ニ至ル迄ノ間及ヒ休廳日ニ到達スル文書ハ當直ニ於テ之ヲ收受ス

第十九條 各課長文書ノ交付ヲ受ケタルトキハ直ニ査閱シ主務者ニ交附シ之ヲ處理セシムヘシ其重要又ハ異例ト認ムル事件ハ大少宮司ノ指揮ヲ受ケ課長自ラ處理シ又ハ特ニ主任ヲ命ジテ處理セシムヘシ

第二十條 本廳ニ到達スル文書ノ内本廳ニ受領スヘカラサルモノアルトキハ庶務課長ハ直ニ返戻又ハ轉送ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 各課ニ於テ發議セントスル事件アルトキハ案ヲ具シ關係ノ課ニ合議シ大宮司ノ決裁ヲ請フヘシ

第二十二條 庶務課ニ於テ發送ヲ要スル文書ヲ受領シタルトキハ當日之ヲ取扱フヘシ若シ文書輻輳シ即日運ヒ難キトキハ其前後緩急ヲ見計ヒ成ヘク速ニ施行スヘシ

第二十三條 至急ヲ要スル文書ニシテ第三十二條ノ時間後發送ヲ要スルモノハ主任ニ於テ淨書校合シ退應時間前ニ在テハ庶務課ニ退應後ニ在テハ當直員ニ交付スヘシ

第二十四條 凡ソ發送スヘキ文書ニシテ親展又ハ至急ノ表記ヲ要シ又ハ書留郵便別配達特使ニ付スヘキモノハ主務課ニ於テ議案ニ其旨ヲ朱記スヘシ

第二十五條 公文ノ淨書ハ楷行二体ニ限リ明瞭ニ記スヘシ文案ヲ草スルモ亦之ニ準ス



若シ文案ノ字句ヲ加除シ又ハ改正スルコトアルトキハ主任者之ニ檢印シ其挿入削除多數ニ涉ルモノハ更ニ淨寫シ張紙等ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 決裁濟ノ文書ニシテ淨書ヲ爲スニ際シ原案ニ於テ書式文例ニ違ヒ又ハ誤脱アルコトヲ發見シタルトキハ主務課ニ通知シテ訂正セシムヘシ

第二十七條 凡ソ處分濟ノ文案ハ庶務課ニ於テ保管シ其機密ニ係ルモノハ宮司官房書記ニ於テ編纂保管セシム

主務課ニ於テ決裁後再回ヲ要スル文案ハ上欄外ニ要再回ノ印ヲ捺シ庶務課ニ回送シ庶務課ハ施行後之ヲ主務課ニ交付シ主務課ハ認印ノ上一週日以内ニ庶務課ニ返付スヘシ

第二十八條 前條ノ文書ハ主務課ニ於テ一週日以内ニ返付スルコト能ハサルトキハ更ニ貸借ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條 配布ヲ受ケタル文書ヲ他課ニ移サントスルトキハ一旦庶務課ニ返付スヘシ直ニ他課ニ轉送スルコトヲ得ス

第三十條 要急ノ文書ハ受付ノ順序ヲ經ス處分スルコトヲ得ト雖モ決行後更ニ庶務課ニ回附スヘシ

第三十一條 總テ處分決了シタル文書ハ(完結)ノ印ヲ上欄外ニ押捺シ一週日以内ニ庶務課ニ回附スヘシ

務課ニ回附スヘシ

第三十二條 決裁濟ノ文書ハ主務課長之ヲ受ケ決裁月日ヲ記入シ一閱ノ上之ヲ主任ニ交附シ發送スヘキモノハ上欄外ニ要發送ノ印ヲ捺シ退廳時限三十分前迄ニ庶務課ニ送附スヘシ

第三十三條 庶務課ニ於テ發送ヲ要スル文書ヲ受ケタルトキハ淨書校合ノ上番號ヲ本書及ヒ議案ニ朱記シ且之ニ契印シ文書件名簿ニ月日番號件名送附先等ヲ記載シ發送ノ手續ヲ爲スヘシ

應印又ハ大宮司少宮司ノ官印ヲ要スルモノハ官房書記ニ押印ヲ求ムヘシ但各課長又ハ課名ヲ以テ施行スル文書及電信文若クハ圖面又ハ諸表其他添付書類等ハ主務課ニ於テ淨書校合ノ上議案ト共ニ庶務課ニ交付スヘシ

第三十四條 凡ソ文書ハ主務課ニ受領シタル日ヨリ五日以内ニ議案ヲ起草シ回議後課長ニ課長ハ之ヲ大少宮司ニ提出スヘシ其他課ニ合議ヲ要スルモノハ其課ニ送付シ合議ヲ受タル課ニ於テハ二日以内ニ主務課ニ返付スヘシ但本條日數ハ休廳日ヲ算入セス

至急又ハ機密ノ文書ハ(急)又ハ(秘)ノ印ヲ捺シ取扱ノ際特ニ注意スルコトヲ要ス議案ヲ以テスル暇ナキ至急ノ件ハ大宮司又ハ少宮司ノ承認ヲ受ケ口頭ヲ以テスルコ

トヲ得ト雖モ決行後ハ直ニ議案トナシ大少宮司及關係課名ヲ記載シ檢印ヲ受クヘシ  
第三十五條 議案ノ參考ヲ要スルモノハ其原文若クハ要領ヲ議案ノ餘白又ハ別紙ニ記  
載シテ之ヲ添附スヘシ

參考ノ文書ハ其始メニ參考ト朱記スルコトヲ要ス

第三十六條 凡ソ文書及ヒ物件ノ授受ハ簿冊ニ記入シ受領者ノ檢印ヲ徵シ且ツ其月日  
ヲ明ニシ何時タリトモ直ニ其所在ヲ知り得ルコトヲ要ス

第三十七條 凡ソ文書類ハ公務ノ外課長ノ許可ヲ得スシテ他人ニ示シ又ハ寫帖ヲ與フ  
ルコトヲ得ス但重要ノ文書ハ大少宮司ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第三十八條 臨時ノ事務又ハ特別ノ調査ヲ要スル事務ハ一課又ハ數課ヨリ委員ヲ選定  
シテ之ヲ調理セシムルコトアルヘシ委員命ニ依リ審査立案スルトキハ速ニ報告書ヲ  
提出スヘシ

第三十九條 各課長ハ毎年一月政始當日前年執行シタル事務ノ成績表ヲ製シ大宮司ノ  
閱覽ニ供スヘシ

○齋宿規程 明治三十二年七月十一日  
第一三號

兩宮齋宿規程左ノ通相定ム

齋宿規程

第一條 兩宮參集所ニ禰宜一員ツツ齋宿セシメ非常ニ備ヘ傍ラ宮域内一切ノ事ヲ關知  
セシム

但豐受宮ハ常典御饌奉仕ノ禰宜之ヲ兼ヌ

第二條 齋宿員ハ正宮並東西寶殿及宮域内ノ諸別宮ノ御匙御鑰ヲ管理ス

第三條 御匙御鑰ハ御鑰箱ニ納メ開閉ノ都度之ヲ點檢シ閉鎖ノ後封紙ヲ附シ檢印ヲナ  
スヘシ

第四條 宮域内ノ事ニ關シ各詰所員ヨリ臨時指揮ヲ請フコトアルトキハ適宜ノ方法ヲ  
指示シ處分セシムヘシ

第五條 前條ノ處分ヲナサシメタルトキハ處分後參集所詰員ヲシテ其狀況ヲ主務課ニ  
報告セシムヘシ

第六條 火災其他非常ノ事アルトキハ官服着用御匙御鑰ヲ奉携シ正宮又ハ別宮(宮域内所在)  
御危険ト見認ムル所ノ本殿ニ祇候シ適宜ノ處置ヲナシ其狀況ヲ大宮司ニ急報スヘシ

第七條 日誌ヲ備ヘ官氏名並ニ當日ノ事故ヲ記入スヘシ

第八條 齋宿員交替ノ節ハ必ス御匙御鑰箱ノ鍵ヲ授受シ且臨時取扱タル事件ニシテ未  
決ノモノアルトキハ明細ニ其引繼ヲナスヘシ

第九條 齋宿交替時限ハ左ノ如シ

本宮 午後 三時

豊受宮 自四月午後五時 至十月午後四時  
自九月午後五時 至三月午後四時

第十條 交替者ハ必ス前條ノ時限迄ニ參着シ豊受宮ハ御饌奉仕ノ竟ルヲ待チテ交替スヘシ

○宿衛規程 明治三十二年八月二十八日

連第一四號

宿衛規程左ノ通相定ム

宿衛規程

第一章 通則

第一條 宿衛屋詰員ハ儀式課所屬トシ判任官及出仕ヲ以テ之ニ充テ交替勤務セシム

第二條 判任官ハ御門ノ開閉御匙御鑰ノ管理及其他宿衛ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第三條 出仕ハ上官ノ命ヲ受ケ雜務ニ從事ス

第四條 詰員ハ板垣内(別宮ハ瑞垣ノ周圍)ヲ時々巡視スヘシ

第五條 神饌幣帛及勅使皇族通過ノ際ハ前庭ニ出テ磬折敬禮スヘシ

第六條 板垣以内(別宮ハ御垣内外)破損所又ハ掃除不行届等ノ場所アルトキハ主務課

明治三十三年九月二十  
六日勅令第  
三七四號神  
部署官制發  
布ニ付第二  
十五條第二  
十六條第三  
十一條第三  
十二條本文  
消滅

ニ報告シ或ハ便宜直ニ掃除ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 總テ常備品ハ臺帳ニ一々増減ヲ明記シ何時タリトモ調査ニ差支ナカラシムヘシ

第八條 常備品並ニ消耗品ノ必用アルトキハ參集所(瀧原宮及伊雜宮兩宿衛ハ主務課)ニ請求スヘシ

第九條 日誌ヲ備ヘ詰員ノ官職氏名並ニ當日ノ事故ヲ記載スヘシ

第十條 出勤ノ際ハ參集所ニ設ケアル勤仕簿ニ捺印スヘシ

但瀧原宮及伊雜宮兩宿衛ハ毎月勤仕表ヲ製シ翌月五日迄ニ主務課ニ差出ス可シ

第十一條 諸願届並ニ申立書等ハ參集所ヲ經由スヘシ

但瀧原宮及伊雜宮兩宿衛ハ此ノ限ニアラス

第十二條 非常ノ事アル時ハ齋宿員(各別宮宿衛ハ本廳)ニ急報シ其指揮ヲ受クヘシ

但急劇ノ際ハ臨機處分ヲ爲シ後チ其手續ヲ詳細届出ヘシ

第十三條 交替ノ節ハ必御匙御鑰ヲ授受シ且臨時取扱タル事件ニシテ未決ノモノアルトキハ明カニ其引繼ヲ爲スヘシ

トキハ明カニ其引繼ヲ爲スヘシ

第十四條 毎日交替時限ハ四月一日ヨリ九月三十日マテハ午前八時トシ十月一日ヨリ翌年三月三十一日マテハ午前九時トス

第二章 兩宮南宿衛

第十五條 宿衛屋詰員ハ判任官二名出仕一名トス

但本宮御假殿宿衛ハ出仕一名ヲ増員ス

第十六條 外玉垣御門ハ黎明ニ開キ御幌ヲ掛ケ黄昏ニ閉チ御幌ヲ撤スヘシ

第十七條 每朝北宿衛屋詰員ト共ニ内院ヲ巡視スヘシ

第十八條 官位勳等其他相當ノ身分ヲ有スルモノニシテ直チニ正式參拜ヲ申出タルト

キハ齋宿員ニ傳申シ其認可ヲ得テ參拜名簿ニ記入セシメ内規ニ依リ取扱フ可シ

第三章 兩宮北宿衛

第十九條 宿衛屋詰員ハ判任官一名出仕一名トス

但本宮御假殿宿衛ハ出仕一名ヲ増員ス

第二十條 每朝南宿衛屋詰員ト共ニ内院ヲ巡視スヘシ

第二十一條 豐受宮北宿衛屋詰ノ出仕ハ規定ノ交替時限一時間前交替シ退出後常典朝

御饌ヲ奉昇スヘシ

第四章 月讀宮 兩宿衛  
月夜見宮

第二十二條 宿衛屋詰員ハ判任官一名出仕一名トス

第二十三條 正殿及御門ノ御匙御鑰御幌ヲ始メ祭具等ヲ管理ス可シ

但本條ノ外月讀宮宿衛ニ於テハ葦原神社御匙御鑰ヲ管理シ月夜見宮宿衛ニ於テハ

高河原神社御匙御鑰ヲ管理スヘシ

第二十四條 毎月一日十一日二十一日瑞垣内ヲ巡視シ御門御垣等ニ御神ヲ奉飾スヘシ

第二十五條

第二十六條

第二十七條 城内顛倒木等アルトキハ速ニ主務課ニ報告シ時宜ニ依リ主務課員ノ出張

ヲ求ムヘシ

第五章 瀧原宮 兩宿衛  
伊雜宮

第二十八條 宿衛屋詰員ハ判任官二名出仕一名トシ判任官出仕各一名宛毎夜宿直セシ

ム

第二十九條 正殿及所管神社並ニ諸殿舍御倉等ノ御匙御鑰御幌及祭具等ヲ管理スヘシ

第三十條 毎月一日十一日二十一日瑞垣内ヲ巡視シ御門御垣等ニ御神ヲ奉飾スヘシ

第三十一條

第三十二條

第三十三條 毎月消耗品受拂表並ニ郵券受拂表ヲ製シ翌月五日迄ニ主務課ニ回送スヘシ

シ

第三十四條 御垣内ハ勿論宮地内ヲ毎日巡回シ掃除ヲ監視シ建物並ニ參道ノ破損顛倒

木其他風致ヲ損スルモノト見認ムル場所アル時ハ主務課ニ報告シ時宜ニ依リ主務課員ノ出張ヲ求ムヘシ

但伊雜宮ニ於テハ佐美長神社宮地ノ巡檢ヲ爲スコト本條ノ通り

第三十五條 詰員ハ小使掃除夫等ノ雇入解雇ノ意見ヲ主務課ニ申立ツルコトヲ得

○宿衛屋詰ニ關スル件 明治三十四年五月二十三日 達第二七號

明治三十三年九月達第三三號兩宮宿衛屋詰員ニ關スル件左ノ通改定ス

- 一 兩宮宿衛屋ニ判任官專務員十二名ヲ置キ輪番勤務セシメ月讀宮、月夜見宮兩宿衛ハ其他ノ判任官ヲ以テ勤務セシム
- 一 兩宮宿衛屋及月讀宮、月夜見宮宿衛屋ニ出仕專務員十二名ヲ置キ輪番勤務セシム
- 一 前二項各宿衛屋專務員ノ内他ノ公務又ハ缺勤各四日若クハ全時ニ他ノ公務又ハ缺勤四人ニ及フトキハ其他ノ判任官、出仕ヲ以テ之ヲ補充セシム

○豐受宮忌火屋殿詰規程 明治三十二年八月二十八日 達第一五號

豐受宮忌火屋殿詰規程左ノ通相定ム

豐受宮忌火屋殿詰規程

第一條 忌火屋殿詰ハ權禰宜、宮掌、出仕各一名トス

第二條 權禰宜ハ朝夕御火ヲ鑽リ神饌ヲ調理シ宮掌ハ之ヲ扶クヘシ

但上御井御料水ハ每朝宮掌之ヲ汲ミ取り出仕之ヲ持運フヘシ

第三條 出仕ハ御火ヲ焚キ神饌品及器具ヲ洗淨シ御竈等ヲ清潔ニシ朝夕御饌奉仕ノ際辛櫃ヲ昇キ敷設ヲ進退シ毎月十日二十日三十日(大ノ月ハ三十一日)御饌殿御掃除ノ用具ヲ辨備スヘシ

スヘシ

但朝御饌奉昇ノ節一名ハ豐受宮北宿衛屋詰交替後ノ出仕ヲ以テ之ニ充テ夕御饌ノ

奉昇ハ當日本殿出勤ノ出仕ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 常典御饌御料品ハ參集所詰員ニテ檢査送致スト雖モ本殿詰員ニ於テモ之ヲ審査シ若シ不適當ノ品アラハ取換ヲ參集所ニ照會スヘシ

第五條 總テ常備品ハ臺帳ニ増減ヲ明記シ何時タリトモ調査ニ差支ナキヲ要スヘシ

第六條 日誌ヲ備ヘ當番ノ官職氏名並ニ當日ノ事故ヲ記載スヘシ

第七條 非常ノコトアルトキハ齋宿員ニ急報スヘシ

但急劇ノ際ハ臨機處分ヲナシ其手續ヲ報告スヘシ

第八條 交替者參着時限ハ四月一日ヨリ九月三十日マテ權禰宜、宮掌ハ午後四時出仕ハ午後二時トシ十月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ權禰宜、宮掌ハ午後三時出仕ハ午後

一時トス

○兩宮參集所詰規程 明治三十二年六月二十八日 達第七號  
兩宮參集所詰規程別冊ノ通相定ム

兩宮參集所詰規程

第一條 兩宮參集所ニ詰員各一員ヲ置キ用度課員ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 正宮及東西寶殿並ニ宮域内ノ別宮御匙御鑰等齋宿員ニ於テ管理スル物品ノ外  
諸殿舎及倉庫ノ管鑰並ニ御幌其他本廳各課掛ヨリ備付ノ書類器械物品ヲ管理出納ス  
ヘシ

第三條 諸管理物品及各所ノ備品ハ常ニ臺帳ヲ製シ其増減ヲ明記シ何時タリトモ調査  
ニ差問ナキヲ要スヘシ

第四條 祭典用及平常各詰所ニ於テ消費スル需用品ノ取締ヲ爲シ毎月其受拂表ヲ製シ  
主務課ニ出スヘシ

第五條 本廳告達及通知書等ハ各詰所ニ回達シ回覽濟ノ書類ハ之ヲ綴込トシテ保存ス  
ヘシ

第六條 各所詰員ヨリ申立ル件及諸願伺届書等ハ送付簿ヲ以テ庶務課文書係ニ回送ス  
ヘシ

明治三十三年九月二十三日  
勅令第三十七號  
神祇部官制發  
布ニ因リ第  
五條ノ付削  
除ス

明治三十三年八月二十三日  
第一號  
及同年  
十二月二十  
六日達第五  
〇號ニ據リ  
修正ス

ヘシ

但常典御饌奉仕員宿衛員病氣及忌引等ニテ臨時代番ヲ要スルモ主務課ニ通牒スヘ  
キ時間無キ場合ハ齋宿員ノ指揮ニ依リ便宜ノ取計ヲ爲シ後之ヲ主務課ニ通報スヘ  
シ

第七條 諸祭典及常典御饌等奉仕員ハ其都度勤仕名簿ニ登記シ置キ兩宮一括ノ奉務表  
ヲ製シ翌月五日迄ニ庶務課文書係ニ出スヘシ

但諸祭典奉仕員差掛リ不參届出アルトキハ當日參集ノ主務課員ニ交附シ其檢印ヲ  
徴シ置キ追テ第六條本文ノ手續ニ據ルヘシ

第八條 域内諸建物及道路河岸等ノ破損及枯損木、風損木其他風致ニ關シ不体裁ト見  
認ムルモノアルトキハ主務課ニ報告シ場合ニヨリ係員ノ出張ヲ求ムヘシ

第九條 常典御饌品調進ノ際ハ其品位ヲ檢知シ御料ニ充テ難キ品アルトキハ取換ヲ命  
スヘシ

第十條 參集所小使頭以下各詰所小使御掃除人夫雇人等ノ勤怠ヲ監視シ賞罰ニ關シ意  
見ヲ主務課ニ申立ルコトヲ得

第十一條 火災其他非常ノ事アルトキハ齋宿員ノ指揮ヲ得テ適宜防禦ノ處置ヲナシ速  
ニ其狀況及駈附人名等ヲ本廳ニ報告スヘシ

第十二條 毎日詰員交替時限ハ四月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前八時トシ十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ午前九時トス

○兩宮攝末社守衛勤務心得 明治二十八年七月十一日 達第九號

兩宮攝末社守衛勤務心得左ノ通定ム

兩宮攝末社守衛勤務心得

第一條 正殿御鑰御匙ヲ保管シ左ノ祭典當日社頭ニ持參スヘシ

但臨時祭典ハ特ニ之ヲ通知ス

祈年祭 二月

月次祭 (六) 十二月

神嘗祭 十月

新嘗祭 十一月

第二條 平常御門内外及參道等清潔ニ掃除ヲ爲シ尙城内ヲ巡視スヘシ

第三條 正殿御門鳥居其他建造物ノ破損異狀又ハ城内樹木盜伐及顛倒枝折枯損等アルトキハ書面ヲ以テ速ニ届出ヘシ

第四條 城内及近傍ニ非常ノ事變アルトキハ御鑰御匙ヲ携ヘ速ニ社頭ニ馳付本廳出張員

明治三十四年十一月十一日達第四八號ニ據リ修正ス

ノ指揮ヲ受クヘシ若シ出張員ヲ待ツノ邊ナキ危急ノ場合ニ於テハ正殿開扉等臨機ノ所置ヲ爲シ其旨急報ス可シ  
第五條 守衛人死亡シタルトキハ遺族又ハ親戚ヨリ其旨届出ヘシ  
第六條 守衛人忌服ニ罹ルトキハ代人ヲ定メ御鑰御匙ヲ預ケ忌引日數及代人ノ住所氏名ヲ届出ヘシ

○執務時間 明治二十五年十一月二十二日 閣令第六號

各官廳執務時間自今左ノ通改定ス

九月十一日ヨリ十月三十一日迄 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル

十一月一日ヨリ翌年二月末日迄 午前九時ヨリ午後四時ニ至ル

三月一日ヨリ七月十日迄 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル

七月十一日ヨリ九月十日迄 午前八時ヨリ午後十二時ニ至ル

但土曜日日曜日ハ從前ノ通

事務繁劇ノ場合ニ於テハ上官ノ指揮ニ依リ晝夜ニ拘ハラヌ執務スヘシ

○休暇日ノ件 明治九年三月十二日 大政官第二十七號達書

執務時間 休暇日ノ件

明治二十八年十一月二十九日閣令第六號ニ據リ修正ス

院省使應府縣  
從前一六日休暇ノ處來ル四月ヨリ日曜日ヲ以テ休暇ト被定候條此旨相達候事  
但土曜日ハ正午十二時ヨリ休暇タルヘキ事

○年中祝祭日休暇ノ件 明治六年十月十四日 大政官第三百四十四號布告  
年中祭日祝日等ノ休暇日左ノ通候條此旨布告候事

- 元始祭 一月三日
- 新年宴會 一月五日
- 孝明天皇祭 一月三十日
- 紀元節 二月十一日
- 春季皇靈祭 春分日
- 神武天皇祭 四月三日
- 秋季皇靈祭 秋分日
- 神嘗祭 十月十七日
- 天長節 十一月三日
- 新嘗祭 十一月二十三日

明治十一年  
六月五日大  
政官第二十  
三號達同十  
二年七月五  
日大政官第  
二十七號布  
告ニ據リ修  
正ス

○御用始及御用納日時 明治三十四年十二月二十七日 達第四九號  
毎年御用始及御用納日時左ノ通心得ヘシ

- 御用始 一月四日午前九時
- 御用納 十二月二十八日正午十二時

○神宮司應當直規程 明治三十四年四月十八日 達第二三號

明治三十二年十月達第二五號神宮司應宿直規程左ノ通改定ス

神宮司應當直規程

- 第一條 當直ハ判任官二名トス但一名ハ出仕ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 第二條 當直割當ハ庶務課ニ於テ豫メ一ヶ月毎ニ番表ヲ製シ各員ノ認印ヲ徵ス
- 第三條 當直ノ勤務ハ休廳日又ハ平日退廳時限ヨリ翌日登廳時限迄トス
- 第四條 休廳日ノ當直交代ハ平日ノ登廳時限ニ依ル
- 第五條 當直割當ノ後公務若クハ疾病忌引等ノ事故ヲ生シタルトキハ臨時番ヲ割當補充ス
- 第六條 當直ヲ交換シタルトキハ庶務課ニ通告スルヲ要ス



第七條 休應日當直ノ者ハ翌日休暇スルコトヲ得

第八條 當直員ハ左ノ物件ヲ管守スヘシ

- 一 官房及各課ノ印函
- 一 各課所管ノ鍵鑰函
- 一 當直所管ノ鍵鑰

第九條 當直員ハ左ノ簿冊ヲ管理シ勤務終了ノ際次番ニ引繼クヘシ

- 一 當直規程
- 一 當直日誌
- 一 當直番表
- 一 受付簿
- 一 發送簿
- 一 送附簿
- 一 郵便電信規則

第十條 當直員ハ臨時郵便電信發送用トシテ用度課ヨリ豫メ郵便切手ヲ領置スヘシ

第十一條 當直日誌ニハ月日官氏名及當日取扱ヒタル事務ノ要領ヲ記載スヘシ

受付簿ニハ到達文書物件ノ種類員數等ヲ記載スヘシ

發送簿ニハ發送文書ノ種類宛名及郵税額等ヲ詳記スヘシ

送付簿ニハ文書ノ種類又ハ物件ノ員數等ヲ記載シ受領者ノ印ヲ徴スヘシ

領置郵便切手ヲ支拂ヒタルトキハ翌日用度課ニ報告シ支拂額ヲ受取り原額ヲ充實シタル上引繼ヲ爲スヘシ

第十二條 大宮司、少宮司宛親展書其他職員名宛ノ電報又ハ親展封書ニシテ至急ノ表示アルモノハ遲滞ナク送達スルヲ要ス

職員名宛ノ親展封書物件ハ可成速ニ送達ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ外到達ノ文書物件ニシテ公用ト認ムルモノハ直ニ開緘査閲シ至急ヲ要スルモノハ主務課長若クハ課員ニ送付シ其他ハ翌日庶務課文書係ニ交付スヘシ

第十三條 至急ヲ要スル事アルトキハ臨機適應ノ處分ヲ爲シ又ハ主務課員ノ登廳ヲ求ムヘシ

第十四條 各員退廳後ハ廳中ヲ巡視シ文書ノ散逸等アルトキハ之ヲ檢収シ特ニ火ノ元戸締ニ注意スヘシ

第十五條 非常ノ節ハ御眞影ヲ安全ノ地ニ遷シ大少宮司ニ急報シ門戸ノ開閉點燈ノ配置文書其他重要品ノ搬出保護等臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

○神宮司廳職員旅行規定 明治三十年四月二十八日 內務省訓第四〇七號

神宮司廳

宮司以下神宮司廳職員ノ旅行ニ關スル規定左ノ通定ム

第一條 宮司以下神宮司廳職員ノ旅行ハ其ノ事故日數地名等ヲ明記シ宮司ヨリ內務大臣ニ稟請スヘシ

左ニ掲クルモノハ稟請ヲ要セス旅行スルコトヲ得但權宮司以下ノ職員ハ宮司ノ許可ヲ經ヘシ

一 三泊以内ノ旅行

二 親戚病氣危篤ニテ難擱事情アルトキ

三 賜暇中旅行

四 忌引中歸省

第二條 別宮及攝末社出張ハ稟請ヲ要セス權宮司以下ノ職員ニアリテハ宮司之ヲ命スルモノトス

第三條 第一條第二項ノ二三四及第二條ノ旅行ハ月末ニ於テ宮司ヨリ內務大臣ニ報告スヘシ

第四條 出仕雇員及社費ヨリ俸給ヲ受クル職員ノ旅行ハ宮司ニ於テ之ヲ許否ス

第五條 社務ニ依リ旅行スルモノ、外總テ私費ヲ以テ支辨スルモノトス

第六條 旅行ニ關スル從前ノ令達ニシテ本訓令ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

○神宮司廳職員旅費規程 明治三十一年五月二十六日 內務省訓第四八六號

神宮司廳

神宮司廳職員旅費規程 明治三十一年六月一日ヨリ施行ス

神宮司廳職員旅費規程

第一條 神宮司廳職員ノ旅費ハ此規程ニ定ムルモノ、外明治三十年勅令第三百三十三號ノ規程ニ據ル

第二條 神宮司廳職員祭典其他ノ事由ニ依リ神宮所轄地へ旅行スルトキハ其旅費ハ別表ニ據リ支給ス

但出張中齋館ニ宿泊シ辨當ヲ支給スルモノニハ宿泊料ヲ支給セサルモノトス

第三條 雇員ノ赴任並ニ神宮所轄地以外ニ旅行スルトキハ其旅費ハ明治三十年內務省令第二十七號甲號表ニ據リ給仕小使其他小者等ノ旅費ハ同省令乙號表ニ據リ支給ス

第四條 林地及營繕箇所見廻等ノ爲メ現場ヲ巡回スル職員ニ對シテハ神宮宮司ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ特ニ其旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

明治三十一年八月二十九日訓第七六三號全三十二年十月三十一日訓第九九三號ニ據リ修正ス

第五條 神宮宮司ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ旅費ノ定額ヲ減少シ又ハ其一部ヲ支給セサルコトヲ得

等	給	給	給	給
等	瀛車賃 二哩	車馬賃 二哩	宿泊料 二夜	日當 二日
一等	祭主 六錢	參拾錢	貳圓	壹圓五拾錢
二等	宮司(勅任) 五錢	拾六錢	壹圓	八拾錢
三等	宮司(委任、權宮司、 禰宜、權禰宜) 四錢	拾四錢	八拾錢	七拾錢
四等	主典、宮掌、 參錢	拾貳錢	六拾錢	四拾錢
五等	雇員 貳錢五厘	拾錢	四拾錢	參拾錢

○內國旅費規則 明治三十年九月二十四日 勅令第三百三十三號

朕內國旅費規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

內國旅費規則

第一條 內國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキ之ヲ支給ス

第二條 內國旅費ハ分テ四等トシ別表定ムル處ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 瀛車旅行ニハ哩數ニ應シ瀛車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス

宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セズ

官用ノ船舶ニテ旅行シ官ヨリ賄ヲ爲サ、ルトキハ食卓料ヲ支給ス

第四條 官用ノ舟車馬等ニテ旅行スルトキハ本令ノ瀛車賃船賃車馬賃ヲ支給セズ

旅行ノ性質又ハ地方ノ情況ニヨリ定額ノ瀛車賃船賃車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ實費ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五條 強雨積雪又ハ道路險惡ノ爲メ定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ハ定額二倍以

内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第六條 瀛車賃船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一位未滿端數ノ路程ハ切捨トス

第七條 年度若ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ瀛車旅行若ハ水路旅行ニシテ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シテ計算ス

明治三十一年三月三十一日勅令第一〇八號第二號別表修正ス

第八條 陸路六里未滿瀛車十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給ス

第九條 在勤廳所在地ノ市區町村内ヲ巡廻シ遠距離ニ涉ルトキハ一日五十錢以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第十條 赴任ノ場合ニハ舊任地ヨリ新任地マテ瀛車賃船賃及車馬賃ニ限り定額ノ二倍ヲ支給ス

第十一條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給ス

第十二條 旅行中廢官退官非職退職若ハ死亡ノモノニハ前官若ハ本官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ退官ノモノハ此ノ限ニアラス

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但シ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其ノ路程十分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但シ通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス

第十四條 測量土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡廻スル官吏又ハ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シテ各省大臣ハ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 各省大臣ハ旅費ノ定額ヲ減少シ若ハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十六條 事務引繼殘務取調等ノ爲メ廢官若ハ退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 新ニ任用スル爲メ召喚スルトキハ新任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十八條 陸海軍武官文官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ム

第十九條 雇員其ノ他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ別表ニ準シ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

第二十條 各省大臣ハ當分ノ内臺灣内ノ旅行ニ限り旅費定額ヲ以テ支辨シ難シト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ニ協議シ定額ノ旅費ニ對シ必要ノ増額ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 各省大臣ハ當分ノ内臺灣在勤滿二年以上ニシテ廢官論旨退官若ハ非職トナリ三十日以内ニ同地出發歸郷スルモノニハ前官若ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ第十三條ノ例ニ據ル

臺灣在勤中死亡ノ者アルトキハ本條ニ準シ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第二十二條 本令ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

(別表)

旅 費 額

等 級	瀛車賃 <small>一哩</small> 船賃 <small>一海里</small> 車馬賃 <small>一里</small> 宿泊料 <small>一夜</small> 日當 <small>一日</small> 食卓料 <small>一日</small>
一等親任官	七 錢 七 錢 三十五錢 三・圓 二圓五十錢 二圓七十錢
二等勅任官	六 錢 六 錢 三十錢 二 圓 一圓五十錢 一圓五十錢
三等奏任官	五 錢 五 錢 二十錢 一圓五十錢 一 圓 一圓二十錢
四等判任官	四 錢 四 錢 十五錢 一 圓 五十錢 九十錢

○旅費其外概算渡前金渡方 明治二十二年十一月二十日 勅令第百二十一號

朕旅費其外概算渡前金渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 内國及外國出張ヲ命シタル者ノ旅費ハ旅行ノ見積リ行程及日數ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第二條 外國留學ヲ命シタル者ニ支給スル學資金及諸手當ハ給額半箇年分以内ニ於テ前金渡ヲ爲スコトヲ得

明治三十三年八月二十五日勅令第百二十一號ニ據リ修正ス

第三條 府縣稅又ハ地方稅ノ補助トシテ國庫ヨリ支出スル府縣警察費連帶支辨金、府縣傳染病豫防費蠶種檢査費國庫補助金及北海道沖繩縣ニ於ケル區町村間切傳染病豫防費國庫補助金ハ豫算ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第四條 本令ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○瀧原宮伊雜宮詰出張職員日當支給額並宿泊料ノ件 明治三十三年六月十九日 達第六號  
瀧原宮及伊雜宮詰出張職員日當支給額並ニ宿泊料之件左ノ通伺定ム  
一 權禰宜、宮掌ハ日當金貳拾五錢、衛士、出仕ハ日當金貳拾錢ヲ給シ宿泊料ハ總テ支給セス

〔神宮司廳職員旅費規程第三條ノ参照〕

○内務省令第二十七號(明治三十年十月七日) 甲號表

瀛車賃 <small>一哩</small> 二付	船賃 <small>一海里</small> 二付	車馬賃 <small>一里</small> 二付	宿泊料 <small>一夜</small> 二付	日當 <small>一日</small> 二付	食卓料 <small>一日</small> 二付
金三錢	金三錢	金十錢	金七十錢	金三十錢	金五十錢

瀧原宮伊雜宮詰出張職員日當支給額並宿泊料ノ件

金 二 錢	瀛車賃 <small>二付</small>	船賃 <small>二海里</small>	陸路雜費 <small>二付</small>	日 常 <small>二付</small>	食 卓 料 <small>二付</small>
金 二 錢	金 二 錢	金 六 錢	金 三 十 錢	金 三 十 錢	金 三 十 錢

### 第四類 服務 懲戒

○官吏服務紀律 明治二十年七月二十九日 勅令第百三十九號

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム

#### 官吏服務紀律

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守ス可シ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハズ官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
- 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
- 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
- 一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ産ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レズ

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○神宮司廳職員服務心得 明治三十五年二月二十八日  
達第一〇號  
神宮司廳職員服務心得左ノ通改定ス

神宮司廳職員服務心得

- 第一條 職員出勤スレハ先ツ勤仕簿ニ捺印スヘシ
- 第二條 疾病又ハ事故アリテ出勤時限ヨリ一時間以上ヲ過キ出勤シタルトキハ事由ヲ課長又ハ首座員ニ陳述スヘシ
- 第三條 執務時間中疾病又ハ事故ノ爲メ退出セントスルトキハ其事由ヲ課長又ハ首座員ニ申出承諾ヲ受クヘシ
- 第四條 疾病又ハ事故ニ依リ出勤スルコト能ハサルトキハ出勤時限後二時間以内ニ左ノ事項ニ依リ届書ヲ差出スヘシ
  - 一 届書ニハ病狀又ハ事故ノ要領及不参日數ヲ記載スヘシ
  - 二 病氣引籠七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ届出爾后十五日ヲ過ルトキ亦同シ但引籠日數ハ最初引籠ノ日ヨリ休暇日ヲ通シテ起算ス
  - 三 七日以上引籠ノ者出勤スルトキハ其届書ヲ差出スヘシ
- 第五條 公務ノ都合ニ依リ執務時間外若クハ休應日ニ服務スルトキハ其事由ヲ當直員ニ告知スヘシ

第六條 退應ノ節ハ簿書ヲ取纏メ散逸セサル様注意スヘシ但看守ヲ要スルモノハ當直員ニ交付スヘシ

第七條 辭令ヲ受ケタルトキハ直ニ受書ヲ出シ新任者ハ五日以内ニ履歷書ヲ差出スヘシ但出張及賞與ニ關スル辭令ハ受書ヲ要セス

第八條 新任者ハ本籍及現住所並ニ正忌日アルモノハ二日以内ニ届書ヲ差出スヘシ

第九條 公務出張及私事旅行ハ出發届ヲ發程前ニ歸應届ヲ歸着ノ翌日迄ニ差出スヘシ

第十條 公務出張者歸應シタルトキハ三日(出張日數十日以上ニ涉ルトキハ七日)以内ニ復命書ヲ差出スヘシ

事簡易ナルトキハ口述ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十一條 病氣看護ヲ爲サントスルモノハ豫メ日數ヲ定メ願出ヘシ

第十二條 病氣看護又ハ慕參ノ爲メ旅行セントシ若クハ轉地療養ヲ爲ントスルモノハ豫メ其日數及行先地ヲ記載シ轉地療養願ニハ醫按、看護願ニハ事實ヲ認ムルニ足ル

ヘキ書類ヲ添ヘ願出ヘシ但期限内ニ歸着スルコト能ハサルトキハ本條ノ例ニ準シ

(看護願ニハ被看護人ノ醫按ヲ要ス)許可日限前到達ノ見込ヲ以テ延期ノ追願書ヲ差出スヘシ

第十三條 私事旅行ノ途中一時ノ病氣又ハ天災等ニテ許可ノ期限ヲ經過シタルトキハ歸着後直ニ其事由ヲ届出ヘシ

第十四條 族籍氏名ニ異動ヲ生シ又ハ新ニ住所ヲ定メ及轉居シタルトキハ遲滯ナク届



出ヘシ

第十五條 忌服ヲ受ケタルトキハ其親族ノ稱呼及忌服日數ヲ記シ届出ヘシ

遠慮ヲ爲スヘキモノハ明治三十年告第四號ニ據リ届書ヲ差出スヘシ

第十六條 父母ノ正忌日ニ丁ルトキハ其旨前日届出ヘシ

○正忌日者齋宿ノ件 明治二十八年十月七日 告第八號

祭典奉仕分課ノ者前日正忌日ノ爲齋宿ニ差支候トキハ別設齋宿所ニ於テ齋宿スヘシ 但齋宿所ハ當分林崎文庫ヲ以テ之ニ充ツ

○墓參會葬ニ付遠慮ノ件 明治三十年九月二十一日 告第四號

本廳職員以下雜仕ニ至ル迄自今墓參及葬儀ニ關シタルトキハ左項日數宮社域内ニ參入 並各所(皇學館ヲ除ク)ノ勤仕ヲ遠慮スヘシ

墓參會葬及葬家ニ立入シ者 當日

埋葬ニ立會シ者 貳ケ日

死体ニ觸レシ者 五ケ日

○文官懲戒令 明治三十二年三月二十七日 勅令第六十三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官懲戒令

第一章 總則

第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官及法令ニ別段ノ規定アル者ヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條 官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條 懲戒ハ左ノ如シ

一 免官

二 減俸

三 譴責

第四條 免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコト

ヲ得ス 免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

明治三十四年十一月九日勅令第二一六號ニ據リ修正ス

第五條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額若ハ月俸ノ三分之一以下ヲ減ス

第六條 勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ  
譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條 懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

### 第二章 懲戒委員會

#### 第一款 總則

第八條 懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條 文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

#### 第二款 文官高等懲戒委員會

第十條 文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條 委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ他ノ勅任文官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十二條 委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十三條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ闕員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條 委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中闕員アリテ補闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス  
第十五條 委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一 其ノ官職ヲ失ヒタルトキ

二 委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條 委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條 幹事ハ高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十八條 幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十九條 委員會ニ書記三人ヲ置ク

第二十條 書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十一條 書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三款 文官普通懲戒委員會

第二十二條 文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一 内閣

一 樞密院

一 各省

一 臺灣總督府

一 會計檢査院

一 行政裁判所

一 警視廳

一 北海道廳

一 府縣

一 貴族院事務局

一 衆議院事務局

前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得

第二十三條 委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ内閣ニ在テハ法制局長官、樞密院ニ在テハ書記官長、各省ニ在テハ總務長官、臺灣總督府ニ在テハ民政長官ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ内閣ニ在テハ賞勳局、法制局及内閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第二十四條 委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第二十六條 委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條 書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十八條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三章 懲戒手續

第二十九條 本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第三十條 前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ  
委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ内國旅費規則ニ依リ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

第三十一條 委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ覆申スヘシ

第三十二條 委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第三十三條 委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附則

第三十四條 高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス

第三十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏懲戒令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第五類

文書

圖書

○神宮司廳文書保存規程 明治三十四年十月一日  
連第四一號

神宮司廳文書保存規程左ノ通定ム

神宮司廳文書保存規程

第一條 凡ソ廳中一切ノ文書ハ庶務課記錄係ニ收蒐シ輯整保存又ハ廢棄スヘシ

第二條 文書ノ輕重ヲ區分シテ左ノ三類トス

第一類 永久保存スヘキ文書

第二類 五年間保存スヘキ文書

第三類 一年間保存スヘキ文書

第三條 諸規則及非常又ハ特殊ノ處分其他例規ノ基ト爲リ事ノ創設ニ關スルモノ或ハ  
歴史ノ徵考トナルヘキノ類ハ永久保存スルモノトス

第四條 經費其他金錢出納ニ關シ決算報告ヲ了リタル後ハ不要ニ歸シ又ハ處分濟上申  
報告等ニシテ兩三年間參考ノ必用アリト認ムル文書ノ類ハ五年間保存スルモノトス

第五條 一時ノ願、伺、届、請書及出勤簿、或ハ處辨ヲ了リタル上申、報告、通牒、回答ノ

類ハ一年間保存スルモノトス

第六條 保存期限ハ甲年ノ處分ニ屬スル文書ハ乙年一月ヨリ起算ス

第七條 保存期限ノ變更ヲ必用ト認ムルモノアルトキハ庶務課長ハ主務課長ニ合議ノ上大宮司ノ指揮ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第八條 左ノ帳簿ヲ製シ文書ノ受授ヲ明瞭ナラシムヘシ

文書收受簿 文書再回簿 文書貸渡簿

第九條 文書收受簿ニハ收受シタル書類ノ番號、件名及收受ノ月日ヲ記載スヘシ

文書再回簿ニハ議案ニ要再回ノ記載アルトキ再回ノ月日及書類ノ番號、件名ヲ記シ主務課ニ送附シ主任者ノ印ヲ徵スヘシ

文書貸渡簿ニハ貸渡ノ月日及書類ノ番號、件名ヲ記シ其編輯後ノ文書ニ係ルトキハ書類ヲ記シ借受人ノ印ヲ徵スヘシ

第十條 文書借用ノ日限ハ十日ヲ以テ一期トス若シ其期限内ニ事ノ了ラサルトキハ更ニ借用ノ手續ヲナスヘシ

第十一條 各課ニ於テ特ニ常備ヲ要スル書類アルトキハ主務課ヨリ記録係ニ申出庶務課長ニ合議シ大宮司ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條 二類以上ノ文書ハ索引牌ヲ貼シ類別部目ヲ掲ケ尙照應ヲ要スルモノハ文書

ノ欄外ニ其由ヲ記貼シタル後庶務課長之ヲ檢閲スヘシ但調査ノ際不完備ト認メタルモノハ直ニ主務課ニ就キ完備ヲ求ムヘシ

第十三條 繼年事業又ハ一事件ニシテ夥多ノ文書アルモノハ一件書トシテ編次スヘシ

第十四條 文書ハ編纂完了ヲ俟テ製本シ卷首毎ニ索引ヲ記シ編纂主任ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第十五條 保存期限ヲ畢リタル文書ハ庶務課長之ヲ檢閲シ主務課長ニ合議シ大宮司ノ指揮ヲ受ケ廢棄スヘシ其書中印章等他ニ移用スヘキ處アルモノハ塗抹或ハ截斷シ之ヲ用度課ニ送附スヘシ但即時廢棄スルモ差支ナシト認ムル文書ハ庶務課長限リ處分シ本條ノ手續ニ依ルヘシ

第十六條 第一類ノ文書ハ總テ謄本ヲ作り其原書ハ倉庫ニ保管スヘシ

○圖書貸付規程 明治三十五年二月二十八日 達第九號

圖書貸付規程別紙ノ通定ム

圖書貸付規程

第一條 神宮物品出納規程第六條ニ規定シタル林崎文庫ノ圖書ハ本規程ニ據リ貸付スルモノトス

第二條 圖書ノ閱覽、貸付ハ大宮司ノ決裁ヲ經テ之ヲ許スヘシ但神宮職員ノ閱覽、貸付ハ此限リニ在ラス

第三條 圖書ノ借受ヲ請フモノアルトキハ書目冊數番號等ヲ詳記シ署名捺印シタル證書ヲ提出セシメ之ヲ貸付スヘシ

第四條 圖書貸付ノ員數ハ十部三十冊以内トシ圖書卷帖ノ類ハ二種五點以内トス但第六條ノ場合ハ此限リニ在ラス

第五條 圖書借覽ノ期限ハ四ヶ月以内トス

前項貸付シタル圖書ハ其借覽期間ニ拘ハラヌ毎年四月八月十二月ニ於テ其月二十日マテニ一旦返納セシメ尙引續キ借覽ヲ請フモノアルトキハ更ニ其手續ヲ爲サシムヘシ

第六條 諸官衙ノ請求若クハ著作ノ爲メ圖書ノ借覽ヲ請フモノアルトキハ其事由ヲ詳記セル書面ヲ提出セシメ詮議ノ上一ヶ年以内貸付スルコトアルヘシ

第七條 圖書會計官吏ニ於テ必要アルトキハ貸付圖書其返納期限ニ至ラサルモ臨時之ヲ返納セシムヘシ

第八條 圖書借覽中故意怠慢ニ依リ亡失毀損シタルトキハ同一ノ圖書又ハ相當ノ代價ヲ辨償セシム其辨償了了ヘサル間ハ他ノ圖書ヲ貸付セサルコトアルヘシ

第九條 圖書ノ借覽者轉任若クハ退職セシトキハ直チニ返納セシムルモノトス

第十條 圖書ノ借覽者公務出張又ハ私事旅行ノ場合ニ於テ其日數返納期限ヲ經過セントスルトキハ出發前之ヲ返納スヘシ若シ旅行中返納期限ヲ經過シタルトキハ歸着ノ上直チニ之ヲ返納スヘシ

第十一條 神宮司廳、神宮皇學館、古事類苑編纂事務所及神宮故事編纂所ニ於テ供用スル圖書ニ付テハ本規程第二條乃至第五條ヲ適用セス

第六類

會計

○神宮會計規則 明治三十三年十月二日  
内務省訓第九三八號

神宮宮司

神宮會計規則左ノ通り相定ム

神宮會計規則

第一章 總則

- 第一條 神宮ノ金錢收支取扱ニ關スル手續ハ總テ本規則ニ依ルヘシ
- 第二條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第三條 會計年度所屬ノ收支ニ關スル事務ハ翌年度五月三十一日限リトス
- 第四條 金錢ノ出納ハ毎年度決定ノ豫算ニ依リ施行スヘシ
- 第五條 會計ノ收支年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル
  - 一 收入ニ在ツテハ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日其他ハ總テ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
  - 二 俸給諸給手数料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

- 三 工事及物件購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度否ラサルモノハ物件納入ノ日ノ屬スル年度
- 四 大麻及曆ノ製造原料購入ニ付テハ物件納入ノ日ノ屬スル年度
- 五 前三項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂切符ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ム
- 第六條 毎年度收入金中其費途ニ付本規則ニ別段ノ定メアルモノ及毎年度神宮費補足金ヲ扣除シタル金額ノ内金壹萬貳千圓ヲ蓄積金ニ繰入レ其他ノ金額中ヨリ雜部費及神部署費ヲ支出スルモノトス
- 第七條 不動産ノ賣買、一廉貳百圓以上ノ動産ノ賣却及一廉五百圓以上ノ動産ノ購入ハ其都度事由ヲ具シ内務大臣ヘ經伺スヘシ
- 第八條 一廉五拾圓以上ノ金額ヲ要スル新營ノ工事及一廉貳百圓以上ノ金額ヲ要スル修繕ノ工事ハ其都度仕様目論見帳ヲ製シ内務大臣ヘ經伺スヘシ
- 第九條 金錢ノ收支ハ會計主任ニ於テ會計ノ法規ニ照シ其都度宮司ノ決議ヲ經テ執行スルモノトス

## 第二章 資金

### 第一節 神宮費剩餘金

- 第十條 神宮費剩餘金ハ毎年度ニ於テ神宮費ノ剩餘ヲ生シタル金額ヲ謂フ
- 第十一條 神宮費ノ收支相償ハサル場合アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ神宮費剩餘金ヲ以テ收入ノ不足ヲ補填スルコトヲ得
- 第十四條 第二項ニ依リ第二蓄積金ヲ以テ神宮費補足金ニ繰入ルルコトヲ得ル場合ハ前項ニ依ルノ限リニアラス

### 第二節 蓄積金

- 第十二條 蓄積金ヲ分テ第一蓄積金第二蓄積金トス
- 第十三條 第一蓄積金ハ第六條ニ依リ蓄積シタル金額ヲ謂ヒ第二蓄積金ハ毎年度ニ於テ雜部費、神部署費ノ剩餘及收入ノ過剩ヲ生シタル金額ヲ謂フ
- 第十四條 雜部費又ハ神部署費ノ收支相償ハサル場合アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ第二蓄積金ヲ以テ收入ノ不足ヲ補填スルコトヲ得
- 神宮費補足金ニ充ツヘキ金額不足セルトキ又ハ神宮費補足金ヲ追加スヘキ必要アル場合ニ於テ之ニ應スヘキ收入ナキトキ亦前項ニ同シ

### 第三節 永世神樂料同御饌料

- 第十五條 永世神樂料同御饌料及其利子ハ献納者ノ意思ニ反シテ消費スルコトヲ得ス

### 第四節 利子



第十六條 神宮費剩餘金及第二蓄積金ヨリ生スル利子ハ各當該資金ニ繰入ルルモノトス第一蓄積金ノ利子ハ神宮皇學館費ニ充テ永世神樂料同御饌料ノ利子ハ神部署費ニ繰入レ支出スルモノトス

第三章

神宮費、雜部費及神部署費、神宮皇學館費、古事類苑編纂印刷費及神宮故事編纂費

第一節

神宮費

第十七條 神宮費ハ神宮司廳ニ要スル費用及神宮ノ警衛ニ要スル一切ノ費途ヲ謂フ

第十八條 帝室ヨリ供進セラルル幣帛料、神饌料、國庫ノ供進金及神宮費補足金ハ神宮費ニ充ツルモノトス

第十九條 神宮費ノ欸ヲ分ツテ祭典費、俸給及諸給、廳費、林苑費、旅費、營繕費ノ六項トス

第二十條 各年度ニ於テ神宮費ノ剩餘トナリタル金額ハ神宮費剩餘金ニ繰入ルヘシ

第二節

雜部費及神部署費

第二十一條 雜部費ハ神宮ニ要スル費用中内務大臣ニ於テ指定セル費途ヲ謂ヒ神部署費ハ神部署ニ要スル一切ノ費途ヲ謂フ

第二十二條 雜部費ノ欸ヲ分ツテ林崎文庫費、諸給與、營繕費、寄贈金ノ四項トシ神部署費ノ欸ヲ分ツテ祭典費、俸給及諸給、廳費、旅費、授與大麻曆製造費、營繕費、頒布大

麻曆製造費ノ七項トス

第二十三條 各年度ニ於テ雜部費及神部署費ノ剩餘トナリタル金額ハ第二蓄積金ニ繰入ルヘシ

第三節

神宮皇學館費

第二十四條 神宮皇學館費ハ第一蓄積金利子ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第二十五條 皇學館費ノ欸ヲ分テ俸給及諸給、事務費、旅費、學生費、營繕費ノ五項トス

第二十六條 各年度ニ於テ皇學館費剩餘トナリタル金額ハ第一蓄積金ニ繰入ルヘシ

第四節

古事類苑編纂印刷費及神宮故事編纂費

第二十七條 古事類苑編纂印刷費ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ定メタル年限間第六條ニ依リ蓄積スヘキ金額ヲ以テ之ニ充テ神宮故事編纂費ハ内務大臣ノ認可ヲ經タル金額ヲ以テ之ニ充ルモノトス

第二十八條 古事類苑編纂及印刷費ノ欸ヲ分テ報酬及諸給、編纂費、引用書籍費、既往編纂費、印刷及製本費、出版雜費、書籍遞送料、事務所費、旅費、營繕費、豫備費ノ十一項トシ神宮故事編纂費ノ欸ヲ分テ俸給及諸給、事務費、旅費、豫備費ノ四項トス

第二十九條 古事類苑編纂印刷費及神宮故事編纂費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ其竣成年度マテ遞次繰越使用スヘシ

第四章

豫算、收入、支出、決算、定額繰越

第一節 豫算

第三十條 毎年度收支豫算ハ甲號様式ニ依リ款項目節ヲ設ケ調製スヘシ

第三十一條 毎年度收支豫算ハ成ルヘク收入ノ性質及支出ノ目的ヲ明示スヘシ

第三十二條 毎年度ノ收支豫算ハ當該年度一ケ月前マテニ調製シ内務大臣ノ認可ヲ受

クヘシ

第三十三條 豫算決定後避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ生シ又ハ豫算外ニ必要ノ費用ヲ

生スルトキハ其事由ヲ具申シ追加豫算ヲ調製シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十四條 豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用スルコトヲ得ス又内務大臣ノ認可

ヲ受クルニアラサレハ各項ノ金額ヲ彼是流用スルコトヲ得ス

第三十五條 豫算ノ款項目ヲ増加セムトスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二節 收入

第三十六條 會計主任ニ於テ金錢又ハ金券ヲ受入タルトキハ即日金額事由ヲ記シタル

收納憑證ヲ製シ第九條ノ手續ヲ了シ神宮司應爲替方ヘ預ケ入ルヘシ

神部署ニ於テ受入レタル金錢又ハ金券ハ神宮司應會計課員立會ヲ以テ神部署長ヨリ

即日其保管ヲ神宮司應爲替方ニ委托シ翌日中ニ其ノ内譯書ヲ作り會計主任ヘ納入ス

ヘシ

賽物ハ神宮司應會計課員ノ立會ヲ以テ三日以内ニ金員調査濟ノ上前項ノ手續ヲ爲ス  
ヘシ但シ止ムヲ得サル事故アル場合ハ宮司ノ許可ヲ得テ三日ノ期間ヲ延長スルコト  
ヲ得

第三十七條 既納金員ニ年度又ハ科目等ノ誤謬アルヲ發見シタルトキハ之レカ訂正ノ  
手續ヲナスヘシ

第三節 支出

第三十八條 金錢ノ仕拂ヲ執行セムトスルトキハ其金額事由ヲ詳記シタル仕拂憑書  
ニ基キ第九條ノ手續ニ從ヒ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ受取人ニ交付シ其領收證書ヲ徴ス  
ヘシ

第三十九條 金錢ノ支拂ハ正當ナル受取人若シハ代理人代理人ハ委任狀ヲ要スノ爲ニスルニアラサ  
レハ仕拂切符ヲ發スルコトヲ得ス

第四十條 仕拂タル金員ニ年度又ハ科目等ノ誤謬アルヲ發見シタルトキハ之レカ訂正  
ノ手續ヲナスヘシ

第四十一條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度豫算内ヨリ支出スヘシ但  
其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中剩餘トナリタル金額ヲ超過

スルヲ得ス

第四十二條 旅費ハ概算拂曆ノ謄寫料等ハ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 誤拂過渡等ノ金額ヲ追徴セムトスルトキハ返納告知書ヲ發シ返納セシム

ヘシ

第四十四條 前條ノ返納金ハ其年度内ニ在テハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第四節 決算

第四十五條 收支決算並資金收支明細書ハ様式ニ依リ調製スヘシ

第四十六條 收支決算並資金收支明細書ハ年度後三ヶ月以内マテニ調製シ内務大臣ヘ報告スヘシ

第五節 定額繰越

第四十七條 年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ事故ノ爲メ其年度内ニ經費ノ支出ヲ終ラサリシトキハ内務大臣ノ認可ヲ得テ其金額ヲ翌年度ヘ繰越使用スルコトヲ得

第五章 責任及帳簿

第一節 會計主任及責任

第四十八條 會計主任ハ神宮司應會計課長ヲ以テ之ニ充ツ

第四十九條 會計主任ハ有價證券及金錢ノ保管出納ニ關スル事務ヲ取扱フモノトス

第五十條 會計主任疾病其他事故ノ爲メ事務ヲ執ルコト能ハサルトキハ宮司ハ會計課員ヲシテ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第五十一條 會計主任ハ其職務ニ屬スル事務ニ付一切ノ責任ヲ負フモノトス

第五十二條 會計主任ハ其職務ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルルコトヲ得ス但特ニ事務代理ヲ置キタルトキ其代理者ノ行爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス

第五十三條 宮司ハ會計主任ノ所爲又ハ怠慢ニ由リ損失ヲ生シタルト認ムルトキハ内務大臣ヘ經伺シ損失金ヲ辨償セシムルコトヲ得

第五十四條 會計主任ハ水火盜難等ノ場合ニ於テ避ケ得ヘカサル事故ニ據リ現金又ハ有價證券ヲ紛失毀損シタルトキハ其事實ヲ宮司ヘ證明スヘシ

前項ノ場合ニ於テ宮司ハ實際ノ狀況ヲ取調内務大臣ノ認可ヲ得テ會計主任ノ責任ヲ解除スルモノトス

第五十五條 會計主任ハ第四十六條ニ於ケル決算報告ヲ爲シタル後内務省ノ検査ニ依リ責任ヲ解除セラルル迄前年度ニ於ケル會計上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第二節 帳簿

第五十六條 會計帳簿ノ種類ハ左ノ如シ但會計事務ノ狀況ニ依リ便宜補助簿ヲ調製スルハ此限ニアラス

日記簿 原簿 收入簿 豫算整理簿 日計表

神宮費受拂簿 神宮費剩餘金受拂簿 雜部費受拂簿 神部署費受拂簿

蓄積金受拂簿 永世神樂料同御饌料受拂簿 皇學館費受拂簿

古事類苑編纂印刷費  
及神宮故事編纂費 受拂簿 頒布大麻及曆製造費受拂簿

第五十七條 會計帳簿ハ會計年度毎ニ調製スルモノトス

但日記簿原簿及ヒ資金ニ屬スル受拂簿ハ此限リニアラス

第六章 會計ノ監督

第五十八條 宮司ハ會計主任ノ死亡罷免轉職ノトキハ司應職員ニ命シ會計出納ノ事務

ヲ檢査セシムルモノトス

第五十九條 宮司ハ會計監督上必要アリト認ムルトキハ司應職員ヲシテ會計出納ノ實

況ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第六十條 前二條ニ依リ會計檢査ヲ命セラレタル者其檢査ヲ結了シタルトキハ檢定書

ヲ作り其實況ヲ宮司ニ具申スヘシ

第七章 雜則

第六十一條 年度ノ初ニ於テ未タ實收入ナキトキハ神宮費剩餘金及第二蓄積金ヨリ假ニ支出シ月末ニ至リ戻入ルモノトス但其金額ハ各決定豫算額ノ十二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第六十二條 神宮ノ雜收入ハ毎年度豫算ヲ以テ其收支ヲ定ム

第六十三條 神宮奉齋會年賦返納金ハ第一蓄積金ニ繰入ルヘシ

第六十四條 神宮奉齋會ヨリ徵收セル頒布大麻及曆製造實費ニ係ル金額ハ神部署費ニ

充ツルモノトス

第六十五條 金錢ノ收支ハ神宮司應ニ爲替方ヲ置キ之ヲ取扱ハシムヘシ爲替方ニ對ス

ル命令書ハ內務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十六條 本規則ニ定ムルモノノ外神部署ノ金錢ノ取扱ニ關シ監督上必要ナル規則

ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ宮司之ヲ定ム

第六十七條 本規則施行ノ際現在セル第二蓄積金ハ本規則ニ依レルモノト見做ス

第六十八條 本規則ハ明治三十三年十月十五日ヨリ施行ス

第六十九條 明治三十三年三月當省訓第二九二號神宮司應會計規則其他本規則ニ抵觸

セル從前ノ令達ハ本規則施行ノ日ヨリ抵觸ノ限度ニ於テ廢止ス

様式

豫算決算及資金收支明細書様式ハ追テ指定スル迄従前神宮司應會計規則中相當ノ様式ヲ準用スヘシ

○神宮會計規則補則 明治三十三年十二月二十七日 内務省訓第一二〇五號

神宮 大宮 司

神宮會計規則補則左記之通相定メ明治三十四年一月四日ヨリ之ヲ施行ス

神宮會計規則補則

- 第一條 神宮ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ
- 一、一人又ハ一會社ニテ専有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ルルトキ
  - 二、秘密ヲ要スヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲ストキ
  - 三、非常急遽ノ際工事又ハ物件ノ買入借入ヲナスニ競争ニ付スル暇ナキトキ
  - 四、特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
  - 五、特別ノ技術家ニ命スルニアラサレハ製造シ得サル製造品及機械ヲ買入ルルトキ
  - 六、土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其位置又ハ構造等ニ限アル場合

- 七、五百圓ヲ超ヘサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲナストキ
- 八、見積價格二百圓ヲ超ヘサル動産ヲ賣拂フトキ
- 九、試験ノ爲メニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ルルトキ
- 十、前各號ニ掲グル場合ノ外特別ノ事由アルニ依リ内務大臣ニ於テ隨意契約ノ認可ヲ與ヘタルトキ

第二條 前條ニ依リ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ第五條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲ爲スコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條 内務大臣ノ認可ヲ受ケタル工事ニ付テハ神宮大宮司又ハ神部署長ハ竣工ノ後其工事ヲ監督シタル吏員ヲシテ之カ調書ヲ作ラシムヘシ  
契約ニ依リ工事ノ既済部分又ハ物品ノ既済部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部ヲ仕拂ハントスルトキハ神宮大宮司又ハ神部署長ハ特ニ檢査ノ吏員ヲ命シテ事實ヲ調査シ調書ヲ作ラシムヘシ

會計主任ハ前各項ノ調書ニ依ルニアラサレハ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス又前項ノ場合ニ在テハ其既済又ハ既済部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユルコトヲ得ス  
第四條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ニハ

其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明セシムヘシ但特ニ内務大臣ノ認可ヲ得テ競争者ノ資格ヲ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

第五條 明治二十二年勅令第六十號會計規則第六十九條第三項第七十條第七十二條乃至第八十三條ノ規定ハ神宮司廳及神部署ニ於ケル競争契約及隨意契約ノ施行ニ準用ス但該各條中各省大臣ノ行フヘキ事項ハ神宮司廳ノ契約ニ付テハ神宮大宮司ニ於テ神部署ノ契約ニ付テハ神部署長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第六條 左ニ掲クル事項ハ豫メ競争入札者ニ契約スヘシ

- 一 競争ノ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ前條ニ依ル保證金ハ神宮ノ所得ト爲スコト

二 明治二十二年勅令第六十號會計規則第七十六條第二項第七十八條及第八十一條ノ事項

〔參照〕

○勅令第六十號(明治二十二年四月三十日)

第六十九條

第三項 工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ム可シ

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫

定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ入

札ハチシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲

サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ナ七日マテニ短縮スルコトヲ得

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕障、落成期限、受渡期限、

保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未満ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省畧スルコトヲ得

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保証金ヲ免除スルコトヲ得

○神宮司廳會計細則 明治三十四年九月三日 達第三九號

明治三十三年三月達第二一號神宮司廳會計細則別冊ノ通改定ス

神宮司廳會計細則

總則

第一條 金錢ノ收支ニ關シ神宮會計規則ニ定ムルモノノ外總テ本細則ニ據ルヘシ

第二條 工事及物品ノ賣買貸借備人ノ雇備ハ總テ大宮司ノ決裁ヲ經テ施行スヘシ

俸給及諸給與旅費等ニシテ金額ノ確定セル仕拂事實ノ生シタルトキ(任拂期日アルモノハ其期日ニ達シタルトキ)

ハ豫算整理簿記帳ノ伺ヲ經ヘシ

第三條 決裁濟ノ金額ニシテ異動ヲ生シタルトキハ其事山ヲ明記シ直ニ更訂ノ決裁ヲ

經ヘシ

第四條 金錢ニ關スル議案ハ金額年度豫算科目ヲ記入シ總テ會計課ニ合議スヘシ

第五條 金錢ニ係ル議案ハ總テ豫算ニ照合シ各科目ノ區分及金額ヲ審査スヘシ

豫算

第六條 各課(神宮皇學館、古事類苑編纂事務所、神宮故事編纂事務所ヲ含ム以下之ニ同シ)ハ毎年度其所管ノ收支額ヲ豫算シ豫算要

求書ヲ調製シ前年度十月末日迄ニ會計課ニ送付スヘシ

事業ノ創始ニ係ル事項ハ豫算要求書調製前其意見ヲ具シ會計課ノ協議ヲ經テ大宮司

ノ決裁ヲ受クヘシ

第七條 豫算要求書ハ各細節ニ區分シ各目毎ニ前年度豫算ニ對比シ其増減アル事由ヲ

説明シ且豫算ノ基ク處ヲ詳記スヘシ

但神宮費豫算要求書ニアリテハ本項ノ外前々年度以前三ケ年間實費平均額ヲ掲記

シ各節毎ニ豫算ニ對比シ其増減ノ理由ヲ詳記スヘシ

第八條 會計課ハ各課ノ要求書ヲ調査シ總豫算書ヲ編成シ前年度一月十五日迄ニ總務

課ニ送附スヘシ

第九條 總務課ニ於テ豫算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ審査ヲ了リ會計課

ニ返附スヘシ

第十條 收支豫算決定シタルトキハ會計課ヨリ主務ノ各課ニ其科目金額ヲ通知スヘシ

第十一條 豫算外ニ必要ノ費用ヲ生シ又ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲メ豫算

ノ追加ヲ要スルトキハ前三條ノ例ニヨリ處理スヘシ

第十二條 豫算ニ定メタル金額ヲ彼此流用セントスルトキハ豫算殘高仕拂見込額流用

金額及増減ノ理由ヲ詳記セル要求書ヲ會計課ニ出スヘシ

第十三條 豫算金額ノ流用ハ會計規則第三十四條ニ定ムルモノノ外大宮司ノ決裁ヲ經ヘシ

豫算流用決定シタルトキハ會計課ヨリ主務課ニ通知スヘシ

收入

第十四條 各課ニ於テ收納スヘキ金額ヲ生シタルトキハ其金額氏名納入期日及納入ノ原因ヲ詳記シ會計課ニ報告スヘシ

會計課ニ於テ前項ノ報告書ニ依リ納入告知書ヲ發シ現金ハ爲替方ニ納入セシムヘシ  
會計課ヨリ告知書ヲ發シ收入スヘキ金額ノ納期ハ十日以内ニ於テ主任者適宜之ヲ定ムヘシ

第十五條 古事類苑編纂事務所ニ收入シタル金額ハ一ヶ月毎ニ豫算科目ニ照シ報告書ヲ調製シ翌月五日迄ニ會計課ニ報告スヘシ

第十六條 神宮皇學館ニ於テ收納シタル入學試驗料及授業料ハ即日其保管ヲ司廳爲替方ニ委託シ翌日中ニ其内譯書ヲ添付シ會計課ニ送付スヘシ

支出

第十七條 金錢ノ仕拂ヲ要スルトキハ總テ債主又ハ其代理人請求書或ハ仕譯書ヲ徴ス

ヘシ但俸給及諸給與金、郵便電信料等ノ仕譯書ハ當該主任ニ於テ調製スヘシ其他事實本人ノ仕譯書ヲ徴スル能ハサルトキモ亦同シ

第十八條 債主ヨリ差出シタル請求書及仕譯書ハ當該主任ニ於テ精査ノ上支出科目及所要ノ目的ヲ記入シ其決議書ヲ添ヘ會計課ニ交附スヘシ

一事項ニシテ數回ニ分割仕拂ヲ爲ス場合ニ於テハ初度ノ請求書又ハ仕譯書ニ決議書ヲ添付シ爾後ノ請求書及仕譯書ニハ決議ノ番號年月日ヲ記入スヘシ

物品購入代金ノ仕拂仕譯書又ハ請求書ニハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日又購買ノ際直ニ消費シ物品出納簿ニ登記セサルモノアルトキハ其事由ヲ附記スヘシ

第十九條 仕拂定日ナキ仕拂切符ヲ發行シタルトキハ通知書ヲ債主ニ交附スヘシ

第二十條 古事類苑編纂事務所ニ於テハ每一ヶ月ノ支出金額ヲ豫定シ概算渡ヲ會計課ニ請求スヘシ

收入金ヲ以テ概算金ニ振替ヲ要スル場合ニ於テモ亦前項ニ同シ

第二十一條 前條ノ概算金ハ一ヶ月毎ニ精算シ證憑書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ會計課ニ報告スヘシ

第二十二條 出張者ニ對スル概算渡金及前渡金ハ歸應後十日以内ニ精算ノ手續ヲナスヘシ



第二十三條 休日又ハ退廳後ニ於テ非常至急ヲ要スル仕拂金アルトキハ仕拂憑書及仕

拂切符ニ(非常渡)ノ三字ヲ朱書シ會計課長ノ認印ヲ捺シ債主ニ交附スヘシ

第二十四條 仕拂切符ノ金額ニシテ債主ニ交附前誤拂又ハ過渡ヲ發見シタルトキハ其

仕拂フヘキ金額ヲ債主ニ交附シ誤拂及過渡ニ係ル金額ハ當該科目ニ戻入ルヘシ

第二十五條 定額へ戻入スヘキ返納金ハ第十四條ノ例ニ依リ處理スヘシ

決算及定額繰越

第二十六條 各課ハ毎年度其年度所屬ノ經費仕拂請求書ヲ翌年度五月十五日限り會計

課ニ送附スヘシ

各課ニ於テ前項ノ手續ヲ了シ豫算殘高アルトキハ經費豫算殘高表ヲ調製シ各目毎ニ

殘額ヲ生シタル理由ヲ詳記シ翌年度五月三十一日迄ニ會計課ニ報告スヘシ

第二十七條 定額繰越ヲ要スル金額アルトキハ年度末迄ニ左ノ事項ヲ詳記セル調書ヲ

會計課ニ送附スヘシ

一 竣功遅延ノ理由

一 繰越事項ニ對スル豫算決定額

一 右決定額ニ對スル仕拂濟額

一 右決定額ニ對シ仕拂未濟額(即チ繰越額)

但事項施行ノ決裁ヲ經タル額ト否ラサル額トヲ區分スヘシ

一 右決定額ニ對シ不用額

證憑書類及帳簿

第二十八條 收入ハ爲替方ノ領收證書領收通知書及收入憑書ヲ以テ證明書類トス

第二十九條 支拂ハ債主ノ領收證書及仕拂憑書ヲ以テ證明書類トス

郵便電信料等ノ如キ本人ノ領收證書ヲ徵スル能ハサルモノハ主任官ノ仕拂證明書ニ

當該課長ノ認印ヲ受ケタルモノヲ以テ代用ス

第三十條 俸給其他給與ニ屬スル支出ニシテ任免陟黜缺勤等ノ事項ニ依リ給額ニ異動

ヲ生シタルモノアルトキハ其事由年月日ヲ詳記シ領收證書ニモ附記スヘシ

第三十一條 勅奏判任官ノ滿年賜金判任待遇以下ノ退職賜金等ヲ受タル退官者ニ對シ

テハ其履歷書新任者等ニ在テハ其資格ヲ認ムヘキ證書ノ謄本ヲ仕拂憑書ニ添付スヘ

シ

第三十二條 仕拂期日ノ定マリタルモノニシテ其期日ノ前後ニ支出スルモノ又轉任死

亡退職等ノ事故ニヨリ支給ヲ止メタルモノアルトキハ其事由ヲ詳記シ明記スヘシ

第三十三條 旅費精算及概算ノ請求書ハ其用務及單位ノ給額旅行ノ日數宿泊數往復路

程年月日發着地名ヲ詳記スヘシ但概算渡ニ係ルモノハ其用務及見積計算ノ基ク處ヲ

記載シ其他ヲ省略スルコトヲ得

迂路ヲ經テ旅行セシモノ又ハ病氣滞在其他ノ事故ニヨリ公務外日數ヲ要シタルトキ若クハ旅費ノ實費拂又割増ヲナシタルトキハ其認許書又ハ證明書ヲ添附スヘシ

第三十四條 物件ノ購買又ハ修繕ニ關スル仕譯書ニハ每品ノ種類箇數斤量及單價ヲ揭ケ數箇ニツキ價額ヲ定メタルモノハ其箇數ニ對スル價格ヲ示シ又割引アルモノハ其旨ヲ記スヘシ

第三十五條 前渡金精算書又ハ出張先ニ於テ繰替支拂タル金額ノ仕譯書ニハ正當受取人領收證書ヲ添附スヘシ但事實領收證書ヲ得難キトキハ主任官ノ仕拂證明書ヲ添附スヘシ

第三十六條 概算支出ニ係ル不足金ノ追給或ハ過剩金ノ戻入若クハ過不足ナキ精算等ハ其精算ノ全部及彙ニ領收セシ金額トノ對比計算並ニ當初領收セシ年月日ヲ記載スヘシ

本拂ノ違算ニ係ル不足金ノ追給或ハ過剩戻入ノ仕譯書モ亦前項ニ準ス

第三十七條 部分拂ノ仕拂憑書及仕譯書ニハ契約金額ト請求金額トノ對比計算ヲ記入スヘシ

第三十八條 證憑書類ハ各款毎ニ編冊シ各冊中ニ於テ各目ニ區分シ其金額ヲ表記スヘシ

シ若シ科目更訂其他報告ヲ以テ支拂了シタル金額及概算拂等ニ係ル金額アルトキハ附記スヘシ

定額ニ戻入シタル金額アルトキハ朱ヲ以テ附記スヘシ

第三十九條 概算渡及前渡金ニ對スル證憑書類ハ精算ニ至リ該精算ト同時ニ整理スヘシ

第四十條 證憑書類ノ編纂ハ一ヶ月毎ニ仕拂切符發行ノ月ヨリ二ヶ月以内ニ整理スヘシ

第四十一條 證憑ノ字体及印影ハ明瞭ナルヲ要ス其金額ニ係ル數字ハ一、二、三、廿、卅、等ノ字ヲ用ウルヲ得ス若シ誤記脱字等アリテ訂正ヲ要スルトキハ其項ヲ朱抹シ傍ニ正字ヲ記入シ債主又ハ其代理人氏名ノ下ニ押捺セシモノト同一ノ印章ヲ以テ之ヲ證印スヘシ

第四十二條 正當受取人事故アリテ代理人ニ於テ領收セントスルトキハ其肩書ニ正當受取人ノ氏名並ニ代理人ノ住所氏名ヲ記入スヘシ

第四十三條 神宮會計規則ニ定ムル帳簿ノ外補助簿ヲ設クルトキハ大宮司ノ決裁ヲ經ヘシ

第四十四條 豫算整理簿、日記簿、原簿、受拂簿ハ施行ノ當日其他ハ五日以内ニ記入ス

ヘシ

月計表ハ其翌月十日迄ニ之レテ製シ大宮司ノ閱覽ニ供スヘシ

工事請負及物件ノ賣買貸借

第四十五條 競争入札ノ契約伺議案ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一 公告書

但再入札ノ場合ニ於テハ前公告書共

二 落札者其工事又ハ物品供給ニ二年以上従事セル證明書

三 豫定價格調書

四 落札以下三番札迄

但再入札ノ場合ニ於テハ前入札最低ノ分賣却ニ在テハ最高ノ分共

五 契約書案

第四十六條 隨意契約ノ伺議案ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一 競争入札ニ依ラサリシ理由書

二 契約書案

三 契約者ノ價格見積書

神宮會計規則補則第一條第七號第八號ニ據ルモノハ前項第一號第二號ノ書面添付ヲ

要セス

第四十七條 神宮會計規則補則第三條ニ定ムル處ノ調書ハ債主ノ仕拂要求書又ハ仕譯

書ニ添ヘ會計課ニ送附スヘシ

第四十八條 競争入札保證金ニシテ即日寄託人ニ還附スルモノハ取扱主任ニ於テ保管

スヘシ

雜則

第四十九條 金庫ノ鑰ハ會計主任之レヲ管守シ課員一名ヲ隨ヘ開閉スヘシ

第五十條 公債證書利子受取ハ會計課長ノ名ヲ以テスヘシ

第五十一條 領收證書ノ印影照合ノ爲メ仕拂金領收者ノ印鑑ヲ徴シ置クヘシ

第五十二條 金錢ニ係ル諸書類ハ總テ半紙又ハ之レト同形ノ用紙ヲ以テ調製スヘシ

○神宮物品會計規則 明治三十四年二月十九日 內務省訓第九一號

神宮 大宮 司

神宮物品會計規則左ノ通り相定ム

神宮物品會計規則

第一條 此規則ニ於テ物品ト稱スルハ神宮ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其他神宮

神宮物品會計規則

明治三十四年十一月十四日  
第九號第八  
七六號ニ據  
修正ス

ノ用ニ供スル一切ノ動産ヲ云フ

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之レカ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計吏トス

第五條 物品會計吏ハ神宮禰宜(古事類苑編纂事務所ニ屬スル物品ニ付テハ理事、皇學館ニ屬スル物品ニ付テハ幹事、神部署ニ屬スル物品ニ付テハ神部)中ニ就キ神宮大宮司之ヲ命ス

第六條 神宮大宮司ハ物品會計吏ノ代理員ヲ置クノ必要アルトキハ之ヲ命スルコトヲ得

第七條 總テ物品ハ責任アル吏員ノ保管ニ付スヘシ

第八條 神宮ノ物品ヲ分ツテ左ノ四種トス

- 一 寶物
- 二 備品
- 三 消耗品
- 四 動物

前項ノ區別ハ神宮大宮司之ヲ定ム但一回若クハ數回ノ使用ニヨリ其原質ヲ變更セサル物品ハ不敬其他特殊ノ事由アル爲メ更ニ使用セサルモノト雖トモ消耗品ト看做スノ限ニアラス

第九條 物品ノ出納ハ帳簿ニ其ノ事實ヲ登記スヘシ但神饌等腐敗シ易キ物品及人民ノ獻納物ニシテ保存ノ必要ナキモノハ此限リニアラス

前項帳簿ノ様式ハ明治三十三年四月社甲第十四號通牒ニ依ルヘシ

第十條 物品出納ノ命令ハ神宮大宮司之ヲ行フ但神部署ニ於テハ大宮司ノ代理トシテ署長物品出納ノ命令ヲ發スルモノトス

前項但書ニ依ル物品ノ出納ニ付テハ神部署長其責ニ任ス

第十一條 神宮大宮司(前條但書ノ場合ハ神部署長)ハ必需ノ物品中常時出納ニ係ルモノハ其品種目若クハ數量ヲ規定シ置キ物品會計吏ヲシテ直ニ出納セシムルコトヲ得

古事類苑編纂事務所ニ屬スル物品ニ付テハ神宮大宮司ハ物品ノ出納ヲ其ノ物品會計吏ニ委任スルコトヲ得

第十二條 物品會計吏ハ其ノ故意怠慢ニ依リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第十三條 各吏員ニ交付シタル物品ノ亡失毀損ニ付テハ物品會計吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外其責任ヲ免ルルコトヲ得

第十四條 物品會計吏ハ神宮大宮司ノ命シタル代理員ノ所爲ニ付テハ其責任ヲ免ルルコトヲ得

第十五條 代理員ハ其代理セル所爲ニ付テハ物品會計吏タルノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條 吏員ノ執務上必要ナル物品ハ之ヲ其吏員ニ交付スルコトヲ得

第十七條 前項交付ノ手續及其交付ヲ受ケタル吏員ノ責任ニ關シテハ神宮大宮司之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 消耗品ノ内薪炭油ノ如キ日々消費スル物品ハ一ヶ月以内ノ需要概算高ヲ以テ假渡ヲ爲スコトヲ得

第十九條 凡ソ貯藏ノ物品ハ鎖鑰アル倉庫若クハ貯藏所ニ格護シ物品會計吏若クハ物品會計吏ノ委任シタル吏員ノ立會アルニ非サレハ開閉スルコトヲ得ス其鎖鑰ノ鍵ハ物品會計吏便宜之ヲ保管スヘシ

第二十條 常時出納ヲ爲ササル倉庫若クハ貯藏所又ハ別宮攝末社等特ニ主任ノ吏員ヲ置カサル部局ニ在ル物品ハ神宮大宮司ヨリ毎年一回若クハ物品會計吏交替ノ際檢査ノ吏員ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲ爲サシメ其調書ヲ作ラシムヘシ

第二十一條 前條ノ調書ニハ檢査吏員及ヒ立會人之ニ署名スヘシ

第二十二條 神宮大宮司ハ物品會計吏ヲシテ内務省ノ檢査裁決ヲ受ケシムル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ別記様式ニ由リ年度後四ヶ月以内ニ調製セシメ且其證憑書類ヲ整理セシムヘシ

第二十三條 物品會計吏交替ヲ爲シタルトキ神宮大宮司ハ前任者ヲシテ前項ニ準シ一ヶ月以内ニ計算書ヲ調製シ且其證憑書類ヲ整理セシムヘシ但シ前任者死亡其他ノ事故ニ依リ自身計算書ヲ調製シ能ハサル場合ニ於テハ神宮大宮司ハ他ノ吏員ニ命シテ之ヲ調製整理セシムヘシ

第二十四條 前項但書ニ依リ調製シタル計算書ハ物品會計吏ノ自身ニ調製シタル者ト看做シ内務省ニ於テ檢査裁決ヲナスヘシ

第二十五條 常時出納ヲナササル倉庫若クハ貯藏所ノ物品又ハ別宮攝末社等特ニ主任ノ吏員ヲ置カサル部局ノ物品ヲ保管スル物品會計吏ハ第十八條ノ調書ヲ以テ前條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ内務省ニ求ムルコトヲ得

第二十六條 第十八條ノ檢査ノ吏員及ヒ第二十條第二項但書ノ吏員ハ神部署ニ屬スル物品ニ付テハ署長之ヲ命スルコトヲ得

第二十七條 此規則ハ御神寶御裝束及ヒ神供品等ニ付テハ秘事ニ屬スルモノニハ一切

之ヲ適用セス其秘事ニ屬セサルモノト雖モ奉納又ハ神供ノ時ヨリ撤下ニ至ル迄ノ間ハ之ヲ適用セス

第二十四條 不用ニ屬スル物品及ヒ毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ之ヲ賣却シ又ハ豫シメ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ處分スヘシ

特別ノ事由ニ依リ前項以外ノ處分ヲ要スルモノハ其都度内務大臣ニ經伺スヘシ

第二十五條 遠隔ノ地ニアル部局若クハ生産ニ係ル物品ニシテ本規則ニ準據シ難キモノアルトキハ神宮大宮司ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ特別規定ヲ設クルコトヲ得

第二十六條 物品取扱ニ關スル規定ハ神宮大宮司之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ  
第二十七條 此規則ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

凡例

一 物品會計規則第二十條ニ據リ物品會計吏ノ證明スヘキ物品出納計算書ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

一 物品出納計算書ニハ器具器械備品消耗品動物其他物品ノ種類若クハ所用ノ目的ニ依リ適宜類別シテ每品之ヲ列記スヘシ但同名稱ノ品種ハ之ヲ集合スルモ妨ケナシ

一 物品出納證明上證憑書類トシテ檢査ノ際提示スヘキモノ左ノ如シ但一項乃至三項ハ監督ノ任アル吏員ノ保證書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

一 物品會計規則第十條ノ規定ニ據リタル命令書

二 消耗拂及生産ノ爲メ拂出ノ物品ニ對シテハ各其領收證書

三 保管轉換ノ爲メ仕拂ノ物品ニ對シテハ當該吏員ノ領收證書

四 賣拂品ニ對シテハ品質數量代價賣拂ノ年月日及其事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書

五 亡失毀損ノ物品ニ對シテハ當該上官ノ認定アル品質數量價格及其亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シタル證明書其辨償ニ係ルモノハ尙其物品ノ數量及辨償金額ノ仕譯書

六 贈與拂ノ物品ニ對シテハ其事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書

一 前項ノ證憑書類ハ受拂ニ大別シ計算書ニ掲クル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證憑僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ妨ケナシ

一 證憑書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ每品目ノ數量合計ヲ記載スヘシ

- 一 現在品ノ内地遞送中ノモノアルトキハ其數量及事由ヲ計算書ノ備考ニ記載スヘシ
- 一 常時出納ヲナササル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ニシテ物品會計規則第十八條ニ據リ調書ヲ以テ證明スル場合ニ於テ前回ノ證明高ニ對シ増減異動アルモノハ其仕様書ヲ添付スヘシ但其證憑書類ハ前各項ノ例ニ依ル
- 一 計算書ヲ授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
- 一 物品會計吏交替ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ計算書表題何年度ノ次ニ其取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ
- 一 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ二線ヲ横畫シ主任吏之ニ捺印スヘシ

(3)

明治何年度物品出納計算書面之通相違無之候也

物品會計吏氏名印

内務大臣宛

年 月 日





品目		受	
		越高	買入生
備品 何々	何々	單位ノ 稱呼	
何々	何々		

何年度
納計算書
應名

(1)
明治
物品出

○神宮司廳不動産及動産臺帳様式 明治三十三年四月二十三日社甲第一四號  
内務省社寺局長通牒  
 貴廳ニ屬スル不動産及動産ニ付其臺帳等未夕調製無之趣候ニ付テハ左ノ様式ニ準據シ  
 夫々帳簿調製方御取斗相成可然依命此段申進候也  
 追テ臨時御造營ニ伴ヒ事務繁多ニ可有之被存候得共都合御見計ノ上可成速ニ調製ヲ  
 結了シ其旨御報告有之度此段申添候也  
 (△印ハ朱書)

所在地 府縣郡市區町村字番地  
 番號  
 一名(例ヘハ何造リ何尊神宮司廳々舍又ハ參籠所)

神宮司廳不動産及動産臺帳様式





		備品出						
		丁數		品目				
備考	價	年月日	摘要	單ノ位稱	納人及引繼廳	記號	單價	員數
		明治	年					

納簿					丁數		
(例へ本箱)							
受	拂		現在		年月日	摘要	單ノ位稱
	價格	員數	價格	員數			
					明治	年	(何又何) (個本)



丁數	品目 (例へハ)	消耗品假				
		品目				計
		何課	何課	何課	何課	
年月日	摘要	受入高				
明治 年						

○神宮物品出納規程 明治三十五年一月十六日  
 神宮物品出納規程左之通定ム

神宮物品出納規程

第一條 本規程ニ物品ト稱スルハ神宮物品會計規則ニ定ムル諸品ヲ總稱ス備品消耗品ノ區分及備品動物ノ定數ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 物品會計吏ハ神宮司廳ニアリテハ用度課長、林崎文庫所藏ノ圖書ニ付テハ庶務課長、古事類苑編纂事務所ニアリテハ理事、皇學館ニアリテハ幹事、神部署ニアリテハ第一課長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 物品出納便宜ノ爲左ノ各所ニ物品取扱主任ヲ置ク  
 神宮司廳物品會計吏所屬

- 一 司廳 (附御園、御盥、兩機殿、祭主官舎、林崎文庫)
- 一 本宮參集所 (附南北宿衛屋、月讀宮宿衛屋、忌火屋殿、御殿、衛士見張所)
- 一 豐受宮參集所 (附南北宿衛屋、月夜見宮宿衛屋、忌火屋殿、御殿、衛士見張所)
- 一 瀧原宮宿衛屋 (附參集所、忌火屋殿、衛士見張所)

一 伊雜宮宿衛屋(附參集所、忌火屋殿、衛士見張所)

神部署物品會計吏所屬

一 神部署

一 本宮神樂殿

一 豊受宮神樂殿

第四條 物品會計吏ハ其所屬物品取扱主任ヲ命免ス但瀧原宮宿衛屋伊雜宮宿衛屋物品取扱主任ハ其詰員中ノ首席者ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 物品取扱主任ヲ置ケル各所ノ共用品ハ其物品取扱主任之ヲ保管ス可シ各所一部ノ共用品ハ其共用者中ノ首席者之ヲ保管スヘシ

各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ

第六條 林崎文庫所藏ノ圖書ハ左ノ種類ニ區別シ管理スヘシ

第一 一部限リノ收藏ニシテ且再ヒ購買シ難キ貴重ノ圖書

第二 貴重ノ圖書

第三 前二號ニ屬セサル圖書

前項第一種第二種ハ文庫外ニ出スヲ許サス第三種ハ神宮ノ職員又ハ他官衙ノ請求ニ限リ貸出スコトヲ得

圖書貸付ハ別ニ定ムル規則ニ依リ之ヲ行ヒ且之ヲ貸付簿ニ登記スヘシ

第七條 在庫ノ圖書ハ蠹蝕朽損等ノ害ヲ防ク爲毎年定期ニ曝涼スヘシ

第八條 第五條ニヨリ保管ノ責任アル吏員其物品ヲ故意怠慢ニヨリ亡失毀損セシトキハ相當代價ヲ以テ辨償セシム

直接保管ノ責ナキ吏員ト雖モ故意怠慢ニヨリ物品ヲ亡失毀損シタルトキモ亦同シ

第九條 物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其保管ノ責任アル吏員ヨリ其實情ヲ大宮司(神部署ニ在リテハ署長)ニ具申スヘシ

第十條 物品ノ購入及出納ハ凡テ大宮司(神部署ニ在リテハ署長)ノ決裁ヲ經テ執行スヘシ

常時出納ニ係ル消耗品ハ物品會計吏ヲシテ直ニ出納セシム但其品種品目ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 古事類苑編纂事務所ニ屬スル物品ノ購入及出納ハ該所物品會計吏ニ委任ス

第十二條 物品ノ購入ハ決議書ニヨリ購入傳票ヲ發シ現品ヲ納入シタルトキハ上納書ヲ徴スヘシ

第十三條 物品會計吏ニ於テ購入其他ノ事由ニヨリ物品ヲ接受シタルトキハ證據書ニ照シ調査納入ス可シ

第十四條 各吏員ニ於テ職務上必要ナル物品ハ其所用ノ目的ヲ明示シ各所物品取扱主任ニ請求ス可シ但物品取扱主任ヲ置カサル箇所ニ於テハ直ニ物品會計吏ニ請求スヘシ

第十五條 物品取扱主任ハ各吏員ノ請求ニ基キ物品ノ交付ヲ物品會計吏ニ請求ス可シ但常用消耗品ハ一ヶ月需用高ヲ豫定シ毎月五日迄ニ請求スヘシ

第十六條 第五條第一項ノ共用品ハ物品取扱主任ヨリ其所要ノ目的ヲ明示シ物品會計吏ニ之カ交付ヲ請求スヘシ

第五條第二項ノ共用品ニ付テハ其共用者中ノ主席者ヨリ前二條ニ準シ之カ交付ヲ請求スヘシ

第十七條 物品ヲ交付シタルトキハ凡テ受領證又ハ保管證ヲ徴ス可シ

第十八條 備置中ノ物品不用ニ屬シタルトキハ返納書ヲ添ヘ速ニ返納ス可シ

第十九條 備置中ノ物品修繕其他ノ事故ニヨリ引換ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳記シ之ヲ請求スヘシ

第二十條 品目ノ變更ヲ要スル物品アルトキハ其事由ヲ詳記セル書面ヲ差出ス可シ

第二十一條 物品會計規則及本規程ニヨリ定ムル帳簿ノ外補助簿ヲ設ケントスルトキハ大宮司(神部署ニアリテハ署長)ノ決裁ヲ經ヘシ

第二十二條 物品取扱主任ハ備品受渡簿消耗品受拂簿ヲ設ケ出納ヲ整理スヘシ

第二十三條 各所物品取扱主任ハ毎月消耗品受拂精算書ヲ調製シ正常請取人ノ領收證ヲ添ヘ翌月十日迄ニ物品會計吏ニ報告スヘシ

第二十四條 物品會計吏ハ毎月消耗品受拂計算書ヲ調製シ翌月十五日迄ニ大宮司(神部署ニアリテハ署長)ノ閱覽ニ供ス可シ

第二十五條 不用ニ屬スル物品及毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ大宮司(神部署ニアリテハ署長)ノ決裁ヲ經テ處分スヘシ

第二十六條 本規程ニヨリ定ムル所ノ帳簿及計算書等ハ別紙様式ニヨル

(別紙様式)



(截半紙半)

第	號	購	入	傳	票	明	年	月	日	治	第	號	決	議	分	
備品(消耗品)	納人	氏	目	員	數	單	價	金	額	合計金	右	月	日	迄	ニ	納付スヘシ
											明治	年	月	日		用度課長
											官	氏	名	印		前書之物品上納仕候也
											住所	氏	名	印		物品會計吏官氏名殿

(截半紙半)

第	號	修	繕	傳	票	明	年	月	日	治	第	號	決	議	分			
備品	修繕人	氏	目	及	事由	員	數	單	價	金	額	合計金	右	月	日	迄	ニ	修繕スヘシ
													明治	年	月	日		物品會計吏
													官	氏	名	印		前書之物品修繕上納仕候也
													住所	氏	名	印		物品會計吏官氏名殿

明治 年 月 日 領品收

第 號	備 品 ( 消 耗 品 )	何 所	用 途	右明治							
				年	月	日	請	求	印		

明治 年 月 日 領品收

第 號	備 品 ( 消 耗 品 )	請 求 書	用 途	右及請求候也							
				年	月	日	請	求	御	中	

何所物品取扱主任  
官 氏 名 印



